

[アルキテクトン]

www.shikaku.co.jp

Architekton

万物に学び知識を深め、創造の世界を広げる

首都圏

2026 October

建築生産設計特集

設計者と施工者をつなぐ架け橋

43

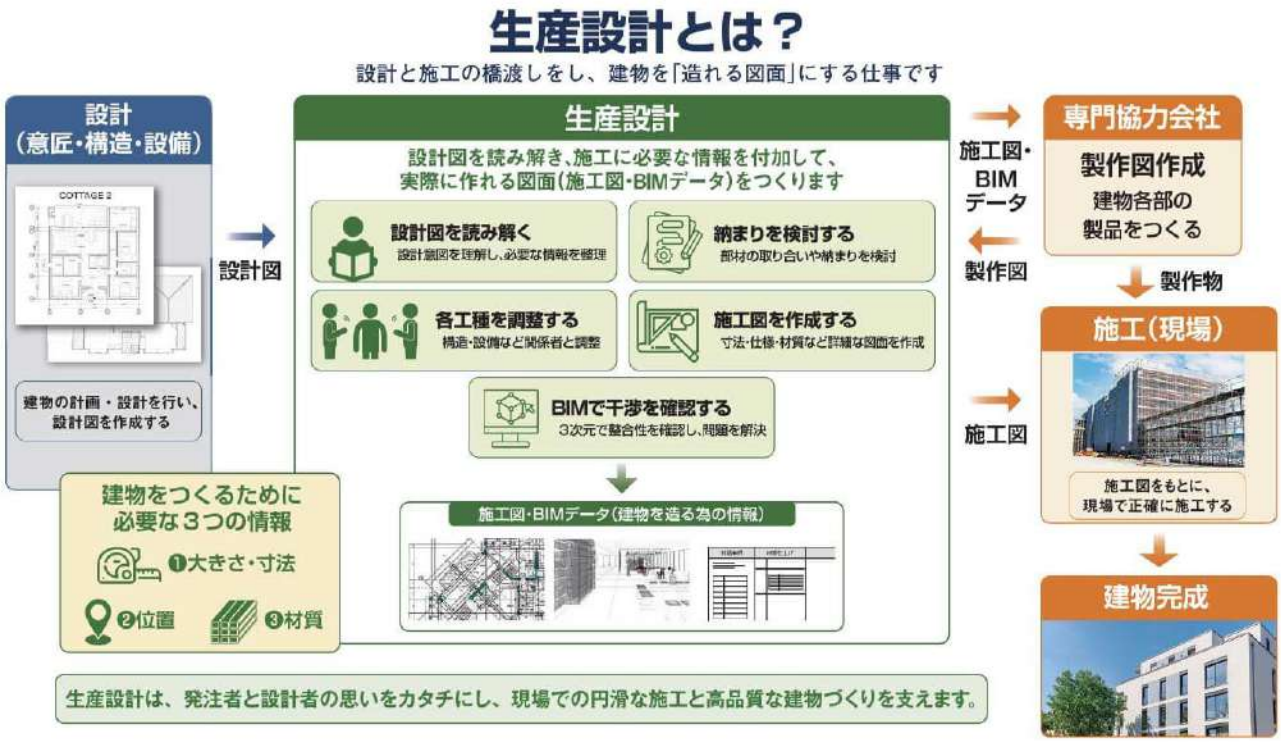
はじめに

建築プランを建物として実現するためには、寸法、材料、製品、位置などの一つ一つの詳細を確定しなければなりません。それらの情報をすべて明記した図面は「施工図」と呼ばれています。建築現場での作業においてプランを具現化するための指針ともいえる施工図。関係者と打ち合わせ・調整を行い施工図としてつくりあげていく行為が「建築生産設計」といわれるものです。建築主と設計者が共に作り上げたプランを建築施工作業とつなぐ架け橋となる建物づくりに必要不可欠な仕事です。

今回は、建築生産設計に焦点を当てた「Architekton（アルキテクトン）首都圏―建築生産設計特集」（第２弾）をお届けします。建築を学ぶ専門学校生によるゼネコンの研修施設の解説付き見学や施工図体験についてリポートするほか、建築生産設計を手掛ける企業の紹介、実際に建築生産設計に携わるエンジニアたちと、そのエンジニアに専門学校で建築を教えていた先生方による座談会の模様も収録しています。

これらを通じて、建築生産設計をより身近に感じてもらいたい――そんな思いで、この冊子を作りました。冊子作成に当たり、建築生産設計協力会の皆さまに多大なるご支援とご協力を頂いたことに感謝申し上げます。

株式会社総合資格



Contents

「学生 × 生産設計」 3

学生が清水建設の研修施設「NOVARE アカデミー」に学ぶ
浜田晃司 NOVARE アカデミー塾長インタビュー

「学生 × 施工図」 7

学生が BIM、手書きで施工図作業を体験

「教員 × 建築生産設計協力会」 9

専門学校教員と最前線で施工図を描く若手の座談会
～生産設計の未来を育てる～

学校紹介 13

中央工学校／東京テクニカルカレッジ

建築生産設計協力会の活動 17

会員企業紹介 19

sai テクニカ／匠設計コンサルタント／西建設計／山本設計企画



清水建設「温故創新の森　NOVARE」の建物

見学会【温故創新の森　NOVARE アカデミー】

モックアップを通じて「施工図」の在り方を学ぶ

中央工学校、東京テクニカルカレッジの学生 20 人が参加

建築生産設計協力会（中村務会長）は6月15日、建築を学ぶ専門学校生を対象にしたゼネコンの研修施設の見学会を開催しました。中央工学校（東京都北区）と東京テクニカルカレッジ（同中野区）の学生 20 人が参加し、清水建設が東京都江東区に設けた研修施設「NOVARE アカデミー（ものづくり至誠塾）」を訪れました。施工現場を模した実物大モックアップなどの見学を通じて、建築施工に必要な情報を現場作業員に伝える生産設計の役割を学んでもらう機会となりました。

JR 潮見駅に近いNOVAREアカデミーは、人財の育成と技術の継承を目的として、2023 年に開設した清水建設の研修施設です。社内研修に加え、学生をはじめとする外部向け研修にも施設を利用できるようにしています。施設内には、RC構造、S・CFT構造、PCa（プレキャスト）・ハイブリッド構造などの実物大モックアップが設けられています。各構造部材の納まり、建物の内装、各種設備機器、ジョイント部、屋上防水など、建築施工における留意点を確認できるようになっています。






中村会長


浜田塾長


坂本副会長

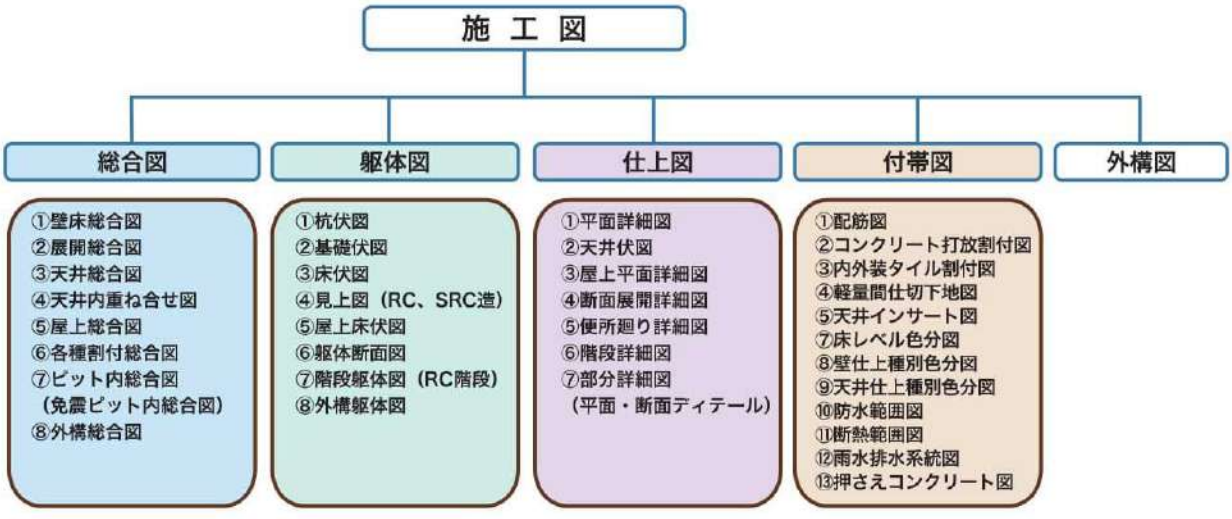
見学会の開催に当たり建築生産設計協力会の中村会長は、「皆さんは日ごろ学校で建築を学んでいますが、建築に関わる仕事にはさまざまなものがあります。施工図を描く生産設計もその一つで、設計者というよりもエンジニア的な存在になります。今回はNOVAREでものづくりの過程を学ぶ中で、生産設計の魅力を感じてもらいたいとの思いから、清水建設様に協力していただき、見学会を企画しました」とあいさつしました。

続いて、NOVAREアカデミーを含む、清水建設がこの地に設けた「温故創新の森NOVARE」について紹介する数分間の動画を視聴。研修だけでなく、同社の建設会社としての歴史を学べたり、移築した近代建築史における貴重な建造物を見られたりと、創業以来のものづくりの原点に立ち返ることができる施設であると説明を受けました。また、建設技術を核としたイノベーションの拠点として、社内外と連携した研究開発が行えるようにもなっているとのことでした。

動画視聴に続き、NOVAREアカデミーの浜田晃司塾長が、ビルなどの建設における建築施工の全体像を紹介しました。全体スキームの中で、設計者、施工を担うゼネコン、工程ごとに専門職種の施工を手がけるサブコンや専門工事業などの役割を説明しました。

浜田塾長によると、「施主の要望を設計者が図面として翻訳したもの」が設計図面となります。基本計画、基本設計、実施設計と段階を経る中で、詳細な内容が順次確定していく過程も紹介しました。施工図を描く生産設計については、例えば壁の厚さや窓枠の位置など設計図面の段階では確定していない詳細部分までを図面に描き込み、現場で作業を行う施工者に必要な情報を伝達する役割があります。生産設計は「設計図面を単にトレースするだけではなく、細部に至るまで現場用に図面を描いていく知的な業務」だということです。

建築生産設計協力会の坂本博昭副会長は、施工図の役割をプラモデル作りに例えて説明しました。施工図については、「部品ごとに組み立てる順番などを詳細に記した取扱説明書のようなもの」だと例えました。生産設計で描く図面には、「総合図」「躯体図」「仕上図」「付帯図」の四つに大別され、建物の内容や



生産設計で描く施工図の内訳

規模などに応じて製作図を含めると「現場によっては何千枚、何万枚にも及ぶ図面を描くこともある」と話しました。

その後のNOVAREアカデミーの見学は、参加者を四つの班に分けて行われました。施設内のモックアップを順次見て回りながら、S・RC造、地下、内装、外装に関して、施工図を描く視点からそれぞれのポイントを、講師役の協力会メンバーが説明しました。床スラブを想定したモックアップでは、コンクリート打設前の鉄筋が組まれた状態を見ることができましたが、講師役のメンバーは「利用者（居住者）の使い方までイメージしながら、施工図を描いていくことが重要です」などと話していました。

見学を終えた学生からは、「授業で聞いていた内容を、実際の現場を模したモックアップで初めて見ることができ、とても勉強になった」「現場の構造などを直接目にすることができた」「学校で教わったことが点と点でつながり、理解を深めることができた」など、学校の机上で学んだ建築の知識をじかに見る貴重な機会になったと話していました。また、施工図を描く生産設計の仕事については、「建築物を造る上で必要な作業だと感じた」「学校で学んだ知識が生かせる仕事だと感じた」といった感想が聞かれました。卒業後の進路の選択肢の一つとして意識する学生も多く、「生産設計について、もっと詳しく話を聞いてみたいと思った」との声も数多く寄せられました。

















清水建設株式会社　NOVARE アカデミー塾長インタビュー



「故きをたずね、新しさを探究する場」

浜田　晃司氏

〔はまだ・こうじ〕一級建築士、１級建築施工管理技士。1980年清水建設入社。30年近く現場の係員や所長として従事した後、新潟営業所長、生産技術本部副本部長、清水建設ものづくり研修センター長などを歴任。2023年から現職。

人材育成やイノベーション創出の場でもある清水建設の「温故創新の森　NOVARE」〔東京都江東区〕。研修施設NOVARE アカデミー塾長の浜田晃司氏に、後進の指導やイノベーション創出を目指す同社の狙いについて、お話を伺いました。

――NOVARE（ノヴァーレ）という施設名称に込めた思いをお聞かせください。

「ラテン語の〈インノヴァーレ〉は、〈イノベーション〉の語源です。『新しくする』『創作する』という言葉から連想された〈ノヴァーレ〉を施設名称とすることで、事業構造、技術、人財のイノベーションを強力に推進したいという当社の思いを表しています」

――イノベーションを起こすための拠点だということですね。

「イノベーションを起こすためには、クリエーティブな人材を育成することが必要です。当社には、建築や土木、設計、営業などの部門があり、人材育成に向けて各部門がカリキュラムを構築しています。カリキュラムに基づく社員研修は、新入社員として入社した段階に加え、節目の年次で実施しています。そうした社員研修の場がノヴァーレアカデミーです」

「イノベーションを起こしていく上で、社内の雰囲気作りも大切だと思っています。施設内には、イノベーションを推進する組織も置いていて、さまざまな人材との交流を通じて、新たな取り組みに挑戦するための機運醸成に役立てています。2024年４月に全面開設となって以降、イノベーション創出に向けた活動に貢献できていると思っています」

――会社の歴史に触れられるようにすることにも力を入れています。

「ノヴァーレには論語の『温故知新』に着想を得た『温故創新』という言葉を付しています。創業以来のものづくりの原点に立ち返り、進取の精神を育む場にするのが狙いです。敷地内に設けた清水建設歴史資料館や、二代目清水喜助の建築作品を移築した旧渋沢邸を通じて、当社の歴史を知り、会社への愛着心を持ってもらえるようにしたいと考えています」

――会社として、社員の起業や独立も支援していますね。

「コーポレートベンチャリング（CV）制度ということで、社員が考案したアイデアで起業する活動を後押ししています。先進的なイタリア式の避難所システムを参考にして、自立的かつ快適な避難所空間を短期間で構築する避難所の統合運用プラットフォームを提供する『ShelterOne』などがあります」

「当社の歴史は、1804年に宮大工として創業したことから始まります。二代目清水喜助は、1860年前後の横浜開港時、小さな漁師町であった横浜を外国人居留地として整備する建設ラッシュに果敢に挑戦しました。『論語と算盤』とともに当社が掲げる『進取の精神』は、創業時から育んだ新しいことにチャレンジするという当社の気風を表したものでもあります」

――研修施設は、社外向けにも利用できるようにしています。

「将来建築の仕事を目指す若い人たちに利用していただきたいと考えています。特に施工系の人材が今後不足することが見込まれていますので、実寸大のモックアップでものづくり現場を体感できる施設の見学を通じて、現場施工の面白さや、魅力をアピールしています。建築を学ぶ大学生に加え、高校生や中学生などに幅広く見てもらいたいですね。学生などのほか、同業他社の研修の場としても利用いただけるようにしています」

――今回、建築生産設計協力会が主催し、建築を学ぶ学生の皆さんに施設を見学してもらいました。

「現場の施工図を描く生産設計の仕事は、学生の皆さんにはイメージがしづらいかもしれません。設計図面に品質や技術の要素も取り込んで描いた施工図は、現場でどのような作業を行うかを伝える重要な役割を担っています。設計と実際の現場の架け橋となる、とてもやりがいのある仕事です。今回の見学を通じて、生産設計に興味を持ってもらいたいと思っています」。



施工図体験

BIMと手書きで生産設計の魅力学ぶ

建築生産設計協力会（中村務会長）は７月９日、建築を学ぶ専門学校生を対象にした「施工図体験」を開きました。中央工学校（東京都北区）と東京テクニカルカレッジ（同中野区）で建築を学ぶ学生９人が参加。会場となった会員企業のsai総合企画の本社（東京都千代田区）で、BIMと手書きによる施工図作成に挑戦しました。体験を通じて、生産設計に対する理解と関心を一層深めたようです。

◆BIM体験＜基本操作を習い、建物モデルの構築に挑戦＞

冒頭、中村会長は「私たち生産設計者は、建物をつくる上で最終的に必要な図面を作る役割を担っています」と生産設計の仕事を紹介。「学びの多い一日になれば幸いです」と期待を寄せました。その後、学生たちは２班に分かれ、BIMと手書きによる施工図作成を交代で体験しました。





BIM体験では「施工BIMのプロから学ぶ初心者のための講習会」と銘打ち、グラフィソフトのBIMソフト「Archicad」を用いて、簡略化した建物モデルの構築に挑戦しました。講師を務めたアイテックの木村雄一代表取締役社長は、直近10年間で年間約50件のBIMモデルの構築・納品に携わってきたスペシャリストです。木村社長はまず、BIMの概要を解説した後、自ら手掛けた作品を交えながら、建築モデルや統合（総合図）モデルなど、BIMの活用事例を紹介しました。

その後、テキストを基にArchicadの基本操作をレクチャーしました。学生たちはパソコン画面上に通り芯を表示し、その上に柱や梁、壁、ドア、窓、床、家具などを配置して、建物モデルの作成に取り組みました。木村社長は、梁のモデリングの際に、コンクリートの増し打ちに必要な情報の入力に支障が出ないように「左から右へ」「下から上へ」と一定方向で作業を進める重要性に言及するなど、実務経験に基づくノウハウも惜しみなく伝えました。最後に木村社長は「今日の体験はArchicadの初歩ですが、機会があれば、ぜひ学校の課題などで生かしてほしいです」と呼び掛けました。



木村雄一氏





◆手書き体験＜平面図と立体図を行き来し、施工図作成の基礎を学ぶ＞

手書き体験は「施工図に必要な情報　2次元から3次元へ…3次元から2次元へ」をテーマに行われました。講師のYOU建築事務所の田原和樹代表取締役社長は生産設計者として30年以上の経験を持ち、現在も実務に携わっています。田原社長は、建物を造るために必要な情報として、「対象物の大きさ・寸法」「基準線からの位置（高さ方向を含む）」「対象物の材質（名称）」の三つの重要性を説明しました。それを踏まえ、学生たちは題材となった直方体の建物の平面図と立面図に三つの情報を書き込む演習に取り組みました。

次の演習では、直方体の一部をへこませた不整形の建物を対象に、平面図から寸法や位置、材質など必要な情報を読み取り、立体図を描く練習をしました。苦戦する学生には田原社長が、最初に直方体を描いてからへこみの部分を削る方法などコツを伝授しました。

さらに、不整形の立体図を基に見下げ図、展開図、断面図を作成し、それぞれに三つの情報を書き込みました。実際に施工する場面を想定し、高さや奥行きなども肉付けしました。

最後に田原社長は実際の施工図を示し、「情報量が多いと思うでしょう。しかし、造る物の大きさ、位置、名称という今回学んだ三つの情報を一つ一つ丁寧に入れて作るのが施工図です。それは手書きでも2DCADでも、BIMでも同じです」と説明。その後の質疑では、学生から「本当にミリ単位で情報を入れるのですか」と質問があり、田原社長は「1㎜まで追求して図面を描く仕事です。興味があれば、ぜひ生産設計の業界に入ってください」と応じました。


田原和樹氏









理解深め進路の選択肢にも

最後に、建築生産設計協力会の坂本博昭副会長は、「手書き体験で学んだ物の大きさや位置、材料といった情報は、手書きでもBIMでも建物という空間を立体的にイメージする上でとても大切です」と体験の意義を強調しました。その上で、「生産設計者はエンジニアですが、クリエーティブな要素もあります。本日の体験をきっかけに生産設計の仕事に興味を持ち、将来の進路の一つとして考えてもらえればうれしいです」とメッセージを送りました。

体験後に実施したアンケートでは、多くの学生が「学校で学んだ知識が生かせる仕事だと感じた」と回答しました。「生産設計を手がける仕事に就きたいと思った」「就職先の一つとして選択肢に入れたいと思った」と答えた学生も多く、卒業後の進路を考える上で、有意義な一日となったようでした。

座談会　教員×建築生産設計協力会 ～生産設計の未来を育てる～



【出席者】

司会　建築生産設計協力会	中村 務会長	
中央工学校	西岡 貴之先生	
東京テクニカルカレッジ	野上 和裕先生	
アイテック	賴 勇偉さん	2023年入社　中央工学校建築設計科卒
池下設計	尾崎 竜亮さん	2018年入社　東京テクニカルカレッジ建築科卒
池下設計	村田 愛実さん	2025年入社　東京テクニカルカレッジ建築科卒
西建設計	浅見 竜太さん	2022年入社　中央工学校建築学科卒
YOU建築事務所	石島 ひなこさん	2016年入社　中央工学校建築設計科卒

■専門学校ならではの実践的教育

中村　本日はお集まりくださりありがとうございます。専門学校の先生方、若手社員の方々と共に、生産設計の魅力や仕事のやりがいなどについて語り合いたいと思っています。まずは先生方に、学校の特色や日頃どんな授業をされているかお伺いします。

野上　東京テクニカルカレッジの建築科で教員をしています。建築科は２年制で、幅広く建築を学べるのが特徴です。施工関係に進む学生が約半数、設計関係が約３割で、設備系や生産設計に進む学生もいます。授業では、建築には色んな図面があることを教え、現場で応用が利く基礎力の習得を重視しています。BIMに関しては、企業と連携して実践的な演習を取り入れています。今日は卒業生の成長した姿を見られるのを楽しみに来ました。

西岡　中央工学校で施工系のクラスを担当しており、このクラスの卒業生の多くは施工管理職に進みます。４年次の卒業制作は、１年間を通して取り組むカリキュラムです。４月の敷地選定から始まり、意匠設計や構造設計を約半年かけて行います。その後の半年では施工図を作成し、設計者と施工管理者の双方の立場から建物の納まりまで検討しながら、建築の一連のプロセスを実践的に学び、最終成果物として完成させます。施工図は、職人や関係者へ分かりやすく伝えるためのコミュニケーションツールです。本校では、専門学校ならではの実務に即した教育を徹底し、実


中村会長


西岡先生


野上先生


頼さん

践力を身に付けられるカリキュラムとなっています。

中村　私も中央工学校の卒業生です。元々は大学の文学部出身で一度就職したのですが、24歳の時に建築を学ぼうと入学しました。建築を志した動機は「自分の家を自分で設計したい」だったのですが、生産設計職として六本木ヒルズやダイバーシティ東京などのランドマークとなる建物づくりに夢中で取り組み、あっという間の20年でした。皆さんはどのような理由で生産設計職に進みましたか。

頼　中国から来日して8年目になります。「日本で自分の設計した家を建てたい」という夢を持って中央工学校に留学しました。先生から外国人にもチャンスの大きい業界だと聞き、この職に就きました。現在入社4年目です。最初の現場では先輩についてサポートしてもらっていましたが、今はほぼ一人で図面修正を担当しています。

浅見　工業高校の建築科を卒業し、設計をもっと詳しく学びたくて中央工学校に入りました。会社説明会で実際の施工図を見せてもらったことが、生産設計に興味を持ったきっかけです。「こんなに細かい設計の分野があるのか」と驚きました。

石島　もともと設計志望で専門学校に入学したのですが、緻密な図面を描く生産設計に興味を持ちました。課題で設計図を描いていて、「本当に建てられるのだろうか」と疑問を持つこともあり、現場に寄り添った仕事をしたいと思ったことも理由の一つです。



尾崎　生産設計職を選んだのは、正直なところ消去法に近かった部分もあります。図面を描きたいけれど、意匠設計に進むほどデザインにこだわるタイプではないし、構造設計も難しい選択だと迷っている時に、生産設計を知りました。入社してからその面白さにハマっていったという感じです。

村田　私は2025年に入社し、2年目です。ゼロから一を生み出すより、一を十にする作業のほうが向いていると学生時代から感じていたので、迷わずこの業界を選びました。今は高層複合建物の上層階ホテル部分を担当しています。

■生産設計は設計者と施工者の架け橋

中村　それぞれ楽しんで仕事をしている様子が素晴らしいです。先生方から見て、生産設計に向いている学生の特徴はありますか。

野上　実際に建てる時のイメージができる人、法規や納まりのことも考えられる人が向いていると思います。一つのことにこだわりすぎず、広い視野で考える力が必要です。全


尾崎さん


村田さん


浅見さん


石島さん

体を見渡せる人は図面の仕上がりも細かいところまで行き届いていますね。

西岡　根本的にものづくりが好きな人、既存のプランを深掘りできる人だと思います。白紙に最初の線を引くのには時間がかかっても、できあがったものに対して「どうすればより正確になるか」を追求することが向いている学生はいます。CADの操作が得意な人も適性があります。

中村　設計者と施工者の架け橋となる生産設計ならではの面白さがある仕事ですが、それぞれに苦労も重ねてこられたと思います。自分なりの課題解決の軸や、仕事のポリシーといったものはありますか。

浅見　最初に設計図を徹底して読み込むことを自分のルールにしています。手戻りやミスが発生するとスケジュールの遅延につながります。とりあえず手をつけるのではなく、準備をして上司や現場の方と打ち合わせし、自分の認識が合っているか確認してから手を付けることを意識しています。

頼　一つ前の現場で小規模な倉庫を任され、各種製作図の手配や設計者との打ち合わせを一人で担当したことがあります。当時は言語の壁もあり、設計者の指示を業者にうまく伝えることができず、双方からお叱りを受けてしまいました。当時は大変な思いをしましたが、振り返ると貴重な経験でした。それ以来、コミュニケーションを大切にすることを自分の軸にしています。

中村　生産設計は特に経験工学の色が強い職種ですからね、皆さん頼もしい限りです。それでは、自身で成長を感じる時はどんな時ですか。

石島　入社10年目ですが、担当物件は2件目です。大型工事のため5年間同じ現場に常駐しました。主に躯体図を担当し、地下から地上、外構まで手掛けました。今は製作図の取りまとめや設計者との打ち合わせも任されるようになりました。自分の成長を感じる間もなく突っ走ってきたというのが正直なところですが、後輩も増えてきて、先輩としての責任を感じるようになりました。これも成長の一つなのかなと思っています。

尾崎　内装の施工図や製作図を多く経験してきて得意にしているのですが、ある時、有名設計事務所が手掛けたデザイン重視の物件を担当しました。納まり検討に非常に苦労した分、完成したかっこいい空間を目にした時の感動はひときわ大きかったです。

村田　まだ1年と少しなので成長と言えるほどではありませんが、図面や納まりに関する





知識は格段に増えました。自分なりに改善策を考えることもできるようになり、もっと成長していきたいと思っています。

■建築を形にするために欠かせない仕事

中村　成長がやりがいに変わっていくのも生産設計の魅力の一つです。それでは教員側の視点では、建築における生産設計の重要性をどのようにお考えですか。

野上　意匠設計に進むと宣言していた卒業生が、学校に遊びに来て「今施工図を描いています。こんなに面白い仕事は他にありません」と言ったのが印象的でした。建築を形としてつくり上げるために欠かせない、施工性を左右する生産設計こそが現場の本当の花形だと思ったそうです。建築といえば世間がイメージするのは意匠設計ですが、施工管理や生産設計といった重要で、かつ魅力的な仕事があることを知ってもらいたい。高校生やもっと若い世代に業界全体でアピールし、建築自体のファンを増やしていく必要があると感じています。

中村　おっしゃる通りです。担い手不足はどこも共通。競い合うのではなく、建築業界全体で取り組むべき問題です。それでは将来の後輩となりうる、今建築を学んでいる学生へのメッセージもお願いします。

石島　入学の際は意匠設計志望の学生が多いと思いますが、建築には色んな業種があるので、その中から自分に合うものが見つかるといいですね。生産設計も選択肢の一つに入れてもらえるとうれしく思います。

浅見　まずは生産設計という仕事があることを知ってほしい。そしてぜひこの業界に飛び込んでみてもらえたら。最近、後輩と一緒に働くのが楽しいと感じています。たくさんの後輩と出会えるのを楽しみにしています。

頼　生産設計はコミュニケーション力が生かせる仕事です。先日も現場所長とサッカーW杯の話題で盛り上がりました。日頃のコミュニケーションを重視すると、よい雰囲気で仕事がしやすくなります。学生の間にそういった力も磨くとよいと思います。

村田　基礎を大切にしてほしいです。私自身、学校でたたき込まれた基礎があったから、自分の力を生かせる生産設計という道を見つけることができました。好きな仕事に就くために勉強をがんばってください。

尾崎　建築業界には幅広い選択肢があります。好きなことに挑戦し、自分の道を見つけてほしいです。

中村　熱いメッセージをありがとうございます。最後に、西岡先生から将来の建築生産設計界を担う若手・学生の皆さんへのエールをお願いします。

西岡　建築が高度化・大型化・分業化していく中、生産設計の役割はますます重要になっていきます。BIMを始めとする新技術を取り入れながら、後輩たちと共にこの業界を強力にけん引していってください。生産設計の認知度が高まり、皆さんが学生たちから憧れられる存在となってくれることを期待しています。



中央工学校

「理論より実際」を重視　誠実で社会性豊かな技術者を育てる



STEP（創立 85 周年記念館）



FacilityStudio 建築設備実習室



DesignStudio 体験型学習室

1909 年の設立以来、中央工学校は校是を「堅実」とし、「厳しい実務教育」と「人間涵養教育」による正しい職業観を備えた人材の育成に努めてきました。「理論より実際」を学習指導の基本姿勢として、「誠実で社会性豊かな技術者」を育てることを不変の使命としています。専門的な知識・技術の修得に加え、社会が求める豊かな人間性を育む教育を心掛けています。

中央工学校
■所在地・拠点：東京都北区王子本町 1-26-17
■設置学部・学科：建築、木造、設備、インテリア、土木、測量、機械、CAD
■設立：1909年
■学生総数（直近）：1,050人
■ＵＲＬ：https://chuoko.ac.jp



校長 **土田 俊行氏**

中央工学校は、1909 年に「工業技術を教授し、もって実務的な技術者を養成する」ことを目的として設立され、現在に至るまで 11 万人を超える工業技術者を社会に送り出しています。本校が求める人材像は、「自らの技術により自立を志す者」と「協調性をもち人とのかかわりを大切にする者」であり、この気持ちをもった若者が自らの夢の実現に向けて頑張ることを全力で応援していきます。



学生発表会

生産設計を体系的に学ぶ実践カリキュラム

近年の建設業界では、設計技術者としての専門性にとどまらず、幅広い知識や実践力を備えた人材が求められています。そこで同校では、「実技・実習訓練を重視した教育の実践」を教育方針に掲げ、実務に直結する技術力を持つ人材の育成に力を注いでいます。具体的には「WorkStudio総合実習室」での施工実習や、地域と連携した設計提案など、実務的な教育プログラムの充実を進めています。

生産設計について学ぶカリキュラムとして、建築設計科（2年課程）2年次の「施工演習」があります。施工図の作成や測量実習、施工関連の実習を通じて、施工に関する知識や技術への理解を深めるとともに、実務に必要な実践力を養っています。建築学科（4年課程）と建築工学科（3年課程）の最終学年では、「施工専攻実習」を中心に、生産設計について体系的に学ぶ科目を用意しています。学生自身が設計した建物を題材に施工図を作成し、施工計画から施工図作成までの一連のプロセスを実践的に学ぶことで、設計と施工の両面を理解した実務に強い技術者の育成を目指しています。









就職・資格取得を一体でサポート

2025年度の主な進路（建築・インテリア関連学科）は表の通りです。

同校では、二級建築士の資格取得を目標とした「二級建築士専科（1年課程）」への再入学を含め、就職も併せた総合的な進路指導を行っています。また、専門学校の役割のひとつである「実務教育」を重視し、生産設計を含む実践的な教育内容の充実を図っています。昨年度の学生求人倍率（建築・インテリア関連学科）は53.1倍で、建設業界における深刻な人手不足の影響が伺える結果となりました。そうした状況を踏まえ、本校では早期離職や就職後のミスマッチを防止する観点から、インターンシップへの参加も積極的に推奨しています。

毎年、生産設計職への就職を希望する学生がいます。人数は決して多くありませんが、在学中に学んだ施工に関する知識を生かせる仕事として進路に選んでいるようです。

表　卒業後の進路

ア.	総合建設業	32.8%
イ.	意匠設計	15.2%
ウ.	設備施工	7.8%
エ.	大工	7.8%
オ.	住宅メーカー	7.0%
カ.	住宅設計施工（工務店関連）	3.9%
キ.	生産設計	3.5%
ク.	進学	3.5%

専門学校東京テクニカルカレッジ
「わかる」から「できる」へ　実践力を磨く建築教育



半世紀以上の歴史を誇る総合学園・小山学園が母体にある専門学校です。建築科、建築監督科、通信制建築科／建築士専科、インテリア科を擁し、約800人の学生が学んでいます。「『わかる』だけでなく『できる』ようになる」と「社会で活躍する力を育てる」を教育方針に位置付けています。専門知識を身につけるだけでなく、実際に設計する、プログラミングする、実験するといった実践的な能力の修得に力を入れています。





専門学校東京テクニカルカレッジ
■所在地：東京都中野区東中野 4-2-3
■設置学部・学科：
建築科、建築監督科、通信制建築科、
建築士専科、インテリア科、情報処理科、
データサイエンス＋AI科、IoT＋AI科、
ゲーム＋デジタルクリエイター科、
Web動画クリエイター科、
バイオテクノロジー科、
環境インフラエンジニア科
■設立年：1969年（小山学園設立）
■学生総数（直近）：約800人
■ＵＲＬ：https://tec.ttc.ac.jp/



校長 **白井 雅哲氏**

激動する社会で活躍するためには、「わかる」だけでなく「できる」ようになることが大切だと考えています。単に専門分野を理解しているだけでなく、実際に設計ができる、施工計画を立てられる、施工図が描けるなど、実際に「できる」ことが重要です。知識・技術を身に付ける「インプット」だけでなく、身に付けた知識・技術を使って実際に何ができるのか「アウトプット」することにも力を入れています。そうした考えの下、クラスメートと協力して課題解決に取り組む授業「リアルジョブプロジェクト（RJP）」を設けています。





総合的に理解を深め建設業界で活躍できる人材を育成

まじめに実直に建築・インテリアの学習に取り組んでいることが同校の特色です。意匠だけでなく、法規や構造上の基準を踏まえながら課題製作に取り組み、卒業後に二級建築士レベルの知識・技術を習得することを目指しています。また、４年課程に「建築監督科」という、施工管理技士の育成を目的とした学科を有している点も特徴です。施工図や各種構造図をはじめ、施工計画図の作成まで、建築生産に直結した実践力を身に付けられる教育を行っています。その教育内容は大手建設会社からも高く評価されています。

４年課程の「建築施工図実践」という科目では、生産設計を設計と施工をつなぐ重要な技術と位置付け、施工図や施工計画図の作成を通して実践的な知識・技術を学びます。工程・品質・安全・原価管理・環境との関係についても、総合的に理解を深め、ゼネコンなどの企業で施工管理技術者として活躍できる人材を育成しています。





きめ細かな就職支援で希望進路へ

建築科とインテリア科では、地域に根ざした建設会社や住宅関連企業へ就職する学生が多いです。特にインテリア科は住宅メーカーなどにも多くの人材を輩出しています。４年課程の「建築監督科」では、ほとんどの卒業生が大手・準大手ゼネコンに入職しています。就職支援では、入学直後から期ごとに就活ガイダンスを実施するとともに、担任制によるきめ細かな個別指導で対応しています。学生ひとりひとりの適性や希望を踏まえながら企業とのマッチングを行い、安心して社会へ送り出せるよう支援しています。

生産設計を手掛ける会社への就職は、２年課程の建築科を中心に実績があります。卒業生の約30％が就職後に設計関連の業務に携わっており、そのうち約半数が生産設計職に就いています。施工管理職と併せ、建築生産分野で多くの卒業生が活躍しています。



――建築生産設計協力会とは――

建築生産設計協力会は、建築生産設計（施工図）を手掛ける企業が集まって 2024 年に設立されました。建築生産設計業務の認知度向上を目的に、業界の活性化や人材獲得・育成につながる活動を展開しています。

建築生産設計業界はゼネコンの施工図作成代行から始まり、その歴史はまだ半世紀です。今では再開発事業や多種多様な建物づくりに欠かせない職種となりましたが、決して知名度が高いとは言えず、建築を学ぶ学生にもなじみの少ない仕事の一つです。一方、高度化・分業化が進む建築の施工現場では、その役割はますます重要になっていくとみられています。緻密な施工図で建物の生産情報を最終決定し、施工品質・性能やコストまでを左右する生産設計の役割は、社会的な意義も無視できません。したがって将来の担い手確保を見据え、こういった生産設計の魅力、やりがいを広く知ってもらうことが必要です。

建築生産設計協力会では、会員企業が連携して、学生への説明会を開催するなどの啓発活動を行っています。生産設計の定義や図面の説明、2DCAD や BIM といったツールの紹介、将来の展望などの情報を提供します。

団体概要

名称
建築生産設計協力会（任意団体）

設立
2024（令和 6）年 7 月 8 日

会員数
正会員：18 社　特別賛助会員：1 社　賛助会員：10 社　（2026 年 8 月時点）

所在地
東京都千代田区富士見 2-2-2　東京三和ビル 401

建築生産設計協力会会員企業

アーキウェル株式会社
（東京都千代田区）

アイテック株式会社
（東京都足立区）

株式会社アルクデザイン
（東京都北区）

株式会社池下設計
（東京都中野区）

株式会社 M&Ftecnica
（東京都江東区）

株式会社エムシーエム
（東京都千代田区）

株式会社奥山
（千葉県千葉市若葉区）

株式会社河村建設
（東京都府中市）

株式会社 sai 総合企画
（東京都千代田区）

株式会社 sai テクニカ
（東京都千代田区）

株式会社佐沼建築システムデザイン
（東京都新宿区）

施工図屋さん合同会社
（東京都中央区）

株式会社匠設計コンサルタント
（東京都渋谷区）

株式会社テクニカルドラフト
（東京都千代田区）

株式会社西建設計
（東京都千代田区）

合同会社バン設計
（香川県高松市）

株式会社山本設計企画
（東京都文京区）

株式会社 YOU 建築事務所
（東京都豊島区）

株式会社 sai テクニカ
業界の求める高い技術を提供　建築技術者のスペシャリスト集団

当社は、建築生産設計分野で 20 年以上の実績を持つ sai グループの一員として、2022 年に設立されました。建築生産設計・建築設計・施工管理・建築事務を主要業務とする建築技術者のスペシャリスト集団です。経営・管理職・技術社員どれをとってもベテランが多く、その経験・スキルを若手社員へと継承していく流れが構築できています。

これまでに手掛けた代表プロジェクトは、東京都港区の麻布台ヒルズ（生産設計 10 名参画）や東京都品川区の OIMACHI TRACKS（生産設計 4 名参画）など。スーパーゼネコンをはじめ業界をリードする建設会社の協力企業として数多くの実績があります。

向上心を忘れず 高みを目指す人材

現在は中途採用が中心ですが、社内教育体制が整ってきたこともあり今後新卒採用を行っていく考えです。「人としての成長なくして、技術的成長なし」との考えに基づき、素直な気持ち、貪欲な向上心を忘れず、プロとしての自覚を持って行動できる方に期待しています。


建材メーカー研修会


周年記念社員クルージング



代表取締役社長 **伊藤 直哉氏**

設立してからこれまで、「自己研鑽～感性を磨き、変化を恐れず成長しよう～」をテーマに社員一人一人の考えや行動を尊重し、企業がそれをフォローするイメージで運営してきました。社会情勢や働き方スタイルが刻々と変化する中、当社の経営理念は継続し、社員の成長を支えてあげられるような組織づくりを行っていきたいと考えます。建築生産設計業務は社外勤務中心ですので個別のヒアリングや企業全体の親睦会など、コミュニケーションの場を大切にし、企業と社員が共に成長できるよう、今後も取り組んでいきます。

株式会社 saiテクニカ
■所在地：東京都千代田区岩本町 3-3-5
秋葉原 SHビル 2階
■設立：2022年
■資本金：2000万円
■従業員数：64名（2026年 7月現在）


暑気払いにて

≪社員紹介≫



大内 照雄さん

プロジェクトマネージャー
担当業務：生産設計
社員歴：３年（生産設計業務経験：32年）

生産設計とは、設計と現場施工をつなぐ仕事です。10年ほど前までは、設計図をもとに施工図を作成すれば十分でした。しかし近年では、電子化の進展を背景に、建築法規の知識も求められるようになっています。設計変更が工程の終盤まで続き、細部まで十分に検討されないまま設計図が作成されることが増えました。施工中にも設計変更が行われるため、それを見落とすと内装完成後に壊して造り直さなければならない事態にもなりかねません。そのため、生産設計は単なる「設計の補助」ではなく、「設計者と共に設計を詰めていく仕事」へと変化していると感じています。

今後、この業界は二極化していくと考えています。たとえBIMを操作できても、建築士レベルの知識がなければ、単なるオペレーターにとどまります。経験に裏打ちされた判断力が不可欠であり、AIによる代替が比較的進みにくい分野の一つだと考えています。さらに、施主や設計者の要望をくみ取るコミュニケーション能力も重要になっています。以前はコミュニケーションが苦手だからこの業界を選ぶ人もいましたが、そのような業務は今後AIに代替される可能性があります。専門知識やコミュニケーション能力を備えた人材は、新しい時代でも必要とされ続けるのではないでしょうか。



李 振華さん

プロジェクトスタッフ
担当業務：生産設計作図・修正
社員歴：1年3カ月（建築設計・都市計画経験16年）

２年前に来日し、１年３カ月前にこの会社に入社しました。来日当初は日本での生活や就職活動に不安もありましたが、温かく迎え入れてくださった皆さまのおかげで、毎日前向きに挑戦できています。いつも丁寧に指導・応援してくれる仲間に支えられ、この会社の一員になれたことを非常に幸運に感じています。これまでに16年ほど建築設計や都市計画に携わってきました。その経験を活かしつつ、日本のプロジェクト環境で新たな視点を取り入れながら成長したいと考えています。会社への恩返しという気持ちを忘れず、今後はチームの一員として、より一層会社の発展に貢献できるよう尽力します。



青柳 龍幸さん

プロジェクトサブリーダー
担当業務：生産設計作図・修正
社員歴：2年6カ月（生産設計経験4年3か月）

施工図のやりがいは、自分が描いた詳細な図面が、そのまま本物の建物として形に残ることだと思います。設計と現場の架け橋となり、周囲から「この人が描いた図面なら間違いない」と真っ先に名前が挙がるような、信頼される技術者になりたいです。

株式会社匠設計コンサルタント
設計・生産設計を支える技術と人材育成

生産設計図作成を主業務とし、BIMモデル作成、設計補助業務、意匠設計業務など、建築プロジェクトにおける幅広い技術サービスを提供しています。当社の強みは、人材育成・現場力・技術力を融合した生産設計体制です。各現場ではチームで業務に取り組み、技術指導や情報共有を行いやすい環境の下、若手社員の育成と品質向上につなげています。

さらに、社内の設計室ではBIM・2Dによる生産設計に加え、設計補助や意匠設計にも対応しているため、設計から生産設計まで一気通貫で対応できることも特長です。赤坂地区の大規模オフィスビルプロジェクトでは、設計室が生産設計BIMモデルの作成から生産設計図の新規作成を担当し、その後、生産設計室のスタッフが現場へ常駐して竣工まで携わりました。設計・現場が密に連携しながらプロジェクトを推進することができました。

当時の常駐スタッフ数名は、現在では設計室に所属し、BIM業務や設計業務における納まり検討を担うメンバーとして活躍しています。生産設計業務における部門間の連携に加え、人材育成と技術継承につながった事例です。

知識の引き出しを増やす研修制度

社員教育をする上で「素直さ」を大事としています。この「素直さ」とは、自分なりの意見を持ちながら、周囲の意見や考え方にも耳を傾け、柔軟に行動できる力のことです。こうした姿勢を育むために新卒研修では「月間レポート」を設けています。これはさまざまなテーマについて、法令集やメーカー資料、事例などを調べ提出するものです。その際には先輩社員にも質問をしながら理解を深めることで、「素直さ」を好奇心や協調性に成長させていく機会としています。また、全社員研修の際には知識の幅を広げるために「グループディスカッション」を行っています。先輩たちの経験してきた事例を学ぶことのほかに、自身の案件説明をもすることで伝える力と聴く力を養い、一人で答えを出すだけではなく、周囲と関わりながら学ぶことを大事にしています。





代表取締役 **福島 誠氏**

私たちは、日本のものづくり文化の根底にある「秩序」と「思いやり」を大切にしています。図面は、自分のためではなく、その先で施工に携わる何百、何千という職人の皆さまへ思いを伝えるものです。だからこそ、「誰が見ても見やすく、誰が見ても間違えない図面」を追求することが、建築技術者としての矜持であると考えています。この考えを社員一人一人が共有し、日々の業務に取り組んでいます。

株式会社匠設計コンサルタント
■所在地：東京都渋谷区代々木2丁目27-16
ハイシティ代々木
■設立：1984年
■資本金：1000万円
■従業員数：114人（2026年7月時点）



忘年会





研修会

≪社員紹介≫

T.Y さん

主任
担当業務：自社案件設計
　　大規模再開発計画設計協力
社員歴：11年

建築の品質は、施工段階だけではなく、設計段階でどれだけ課題を抽出し、解決できるかによっても大きく左右されます。そのため、生産設計のメンバーと密に連携し、納まりや施工性を早い段階から検討することで設計品質の向上につなげています。業務リーダーとして心がけているのは、各メンバーや関係者それぞれの考えや課題を整理し、共通認識を持って業務を進められる環境をつくることです。図面とその背景や目的を共有することで、より良い提案や円滑な意思決定につながると考えています。

K.O さん

主任補
担当業務：設計案件の納まり検討
　　超高層建築内装生産設計
社員歴：10年

学生時代から「自分の仕事が形として残る仕事がしたい」と考えていて、この業界を志望しました。社員同士の雰囲気が良く、ここなら長く働けそうだと感じたことが入社の決め手です。自分が携わった建物が完成し、実際に利用されている様子を見ると今でも嬉しくなります。特に若手の頃に担当した案件を街中で見かけると、頑張ってよかったなと思いますね。また、最近は自分の仕事だけでなく、後輩の成長を感じられることもやりがいの一つになっています。チームで協力して一つのものを作り上げる面白さは、この仕事ならではだと思います。さらに経験を積んで知識を深めながら、大きなプロジェクトを任せてもらえる存在になることが目標です。

A.S さん

係員
担当業務：超高層建築内装生産設計
　　BIM業務・新入社員研修
社員歴：6年

「上京して新しい環境で挑戦したい」という思いを持って就職活動をしていた中で、学校の女性の先輩が働いていることで当社に興味を持ち、「私もここで成長したい」と思い入社しました。仕事のやりがいは、自分が関わった図面が実際に形となり、建物として完成していく過程を見られることです。自分の仕事が社会に役立っていることを実感し、大きな達成感を感じます。まだ学ぶことも多いですが、経験を積みながら知識や技術を磨き、将来的にはプロジェクトの中心となって働く技術者になることが目標です。一つ一つの仕事に真摯に向き合いながら、会社に貢献できる人材を目指して成長していきたいと思います。

株式会社西建設計
チームワークを武器に顧客へ最適価値を提供

2002年に北九州市で創業した当社は、本社のほか福岡、広島、大阪、東京に拠点を置き、生産設計・施工管理・意匠設計を主要業務としています。私たちは常にチームワークを大切にし「全員経営・全員成果」をスローガンに生産設計の品質向上と効率化に取り組んでいます。一人一人の知識や経験を共有し、部門間の連携を強化することで、お客さまに最適な生産設計を提供し、ものづくりの価値向上に貢献します。

当社が携わったプロジェクトのうち、東京都目黒区の目黒清掃工場建替工事では、着工から竣工を向かえるまでの約6年、生産設計業務のメイン企業として技術協力を行いました。一般的な建築物と異なる特殊なプラント施設だったため、さまざまな調整業務が通常よりも多くありました。建築工事とプラント工事との取り合い調整は、特に苦労した点です。

対策として、建屋工事の工程に合わせるように、プラント工事の資料提出日を建築側にて管理調整することで、図面反映情報の遅れを少なくするよう努めました。一般的な物件より必要な図面も多くありましたが、おおむね現場が要望する期間で業務を完了でき、得意先からも良い評価を頂くことができました。

一生涯の技術力を身につける

近年の「売り手市場」で当社も例にもれず厳しい採用競争の中にいます。それでも毎年15名～20名程度、新入社員を迎えられているのは当社の強みと考えています。明るく前向きな方、コツコツ作業に取り組める方、建築が好きな方、一生涯の技術力を手に入れたい方を歓迎しています。

社員教育の方針は、営業担当者が社員一人一人に月1回程度のヒアリングを行い、社員の現状を把握。その上で今後の方向性を相談、指導していきます。また、全社員を集めて年2回の教育訓練、年2回程度の勉強会を実施しています。今後はさらに小グループでの施工図業務検討会を開催する計画です。

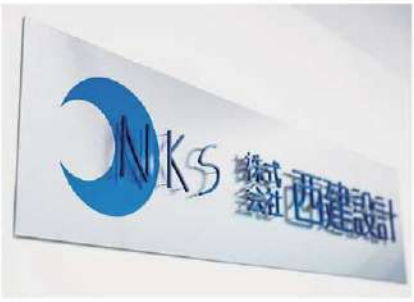




代表取締役社長 **田中 通人**氏

技術を磨き、人を育て、未来をつくる――。「常に最高の技術者集団であれ」という理念の下、技術力の向上と人材育成に力を注いでいます。安心して働ける職場環境にて、経験豊富な社員と若手社員がお互いを刺激しながら成長しています。年齢や性別、経験に関わらず挑戦できる環境があり、一人一人が活躍できる会社です。

株式会社西建設計
■所在地：北九州市小倉北区鍛冶町 1-1-1
北九州東洋ビル6階
■設立：2002年
■資本金：1000万円
■従業員数：396名（2026年5月31日現在）







《社員紹介》



今田 学さん

東京支店設計長
担当業務：生産設計業務全般
生産設計業務歴：24年目

生産設計図は、工事を進める上で必要不可欠な資料です。現場より求められている情報、技術要望内容などを図面にどのように表現し、反映させるかが重要です。そのため、若い社員には、表現の仕方について注意深く指導を行っております。また、「図面というツールを通して現場貢献」という意識も指導の中で伝えています。社員には用途や規模の異なる様々な物件に携わってもらい、色々な経験を積んでもらっています。人材が要となる仕事です。そのため、生産設計の仕事を通して社会貢献できる人材育成にも力を注いでいます。



馬屋 愛美さん

東京支店技術部
担当業務：施工図業務
社員歴：10年目

西建設計に入社して10年、夢が一つかないました。それは、「地図に自分が関わった建物が載る」です。その建物の1階の床石には自身の名前も書かせてもらいました。でもその夢をかなえることができたのは、私一人の力ではありません。優しい先輩方のおかげです。自分が困った時、壁にぶつかった時、親身になって相談にのってくださった先輩がいたからです。今後はもう少しだけ優しい先輩の方々に甘えつつ、後輩に自分が先輩からしていただいたような相談、指導をしていきたいと思います。



仲川 佳孝さん

東京支店技術部技術主任
担当業務：生産設計（主に躯体関連）
生産設計業務歴：19年目

会社説明会で生産設計というものを知り、正直理解はできなかったが面白そうだなと感じ、思い切って飛び込んでみました。自分で納め描いた図面が承認され、その図面で職人さんたちが実際に建物を建て、その建物が地図に載り、その建物が何十年と人々の生活の一部になる。ただの紙1枚がここまで膨らんでいくのだと思うとスケールの大きい仕事をしているんだと思います。竣工後に携わった物件を見に行くことがあるのですが、実際に人々が行き交っている様子をみるとすごいやりがいを感じますよ。

株式会社山本設計企画
40年にわたり培ってきた確かな技術力と柔軟な対応力

1986年の設立以来、生産設計を主要業務とし、多数の大手・中堅ゼネコンと提携関係を築いてきました。近年は施工管理業務にも注力しています。「40年にわたり培ってきた確かな技術力と実績」、「施工現場と設計をシームレスにつなぐ柔軟な対応力」が当社の強みです。これまで、誰もが知るランドマーク的な商業施設や高層オフィスビル、公共施設などを手掛けてきました。

近年の実績には、MIYASHITA PARK、渋谷ヒカリエ、日本武道館、品川再開発などがあります。ある工事で、工期が非常にタイトで、なおかつ現場の施工条件が日々変化する難しい事態に直面しました。現場施工図スタッフに加え、当社社内作図やリモート業務を活用し、施工図長とも密に連携を取りながら、工事に支障がないよう図面を作成していく方法を徹底的に追求しました。チーム全員の技術とコミュニケーションを結集して一つの大きなプロジェクトを支えることが、生産設計ならではの醍醐味と達成感です。

未経験からプロフェッショナルに

専門知識の有無よりも、「ものづくりが好き」「一から技術を身につけたい」という意欲を重視した採用を行っています。素直な気持ちで学び、成長を楽しめる方、チームでのコミュニケーションを大切にできる方を求めています。図面は人と人との対話から生まれます。周囲と協力しながら仕事を進められる方を歓迎します。

未経験からでも安心してプロフェッショナルを目指せる環境を整えています。入社後は約半年かけて、CADの基本操作から図面の読み方まで、先輩社員がマンツーマンに近い形で丁寧に指導するOJT体制をとっています。現場常駐の業務形態となるため、各社員の状況も定期的に確認と把握をできるようにしています。



40周年集合写真


代表取締役 **山本 賢一郎氏**

2026年に創立40周年を迎えることができました。社員一人一人の努力と、お客さまとの信頼関係の賜物です。経営理念は、「社員が心身ともに健康で、安心して長く働ける環境づくり」と「気軽に意見を交わし合える風通しの良い社内コミュニケーション」です。建築業界は今、変革の時代を迎えています。これまで培ってきた技術を守りつつも、若い皆さんの新しい感性やアイデアを積極的に取り入れていきたいと考えています。建築の知識がなくても、「地図に残る仕事に携わりたい」「一生モノの技術を身につけたい」という熱い想いを持った皆さんとお会いできることを、心から楽しみにしています。

株式会社山本設計企画
■所在地：東京都文京区千駄木 2-13-1
ルネ千駄木プラザ15
■設立：1986年
■資本金：1000万円
■従業員数：42名（2026年7月1日現在）


新人現場見学会 -


社内研修発表会


社員旅行　京都

《社員紹介》



竹内 由宇さん

主任
担当業務：生産設計
（本社持ち帰り図面取りまとめ）
社員歴：17年

３年前までは大手ゼネコンの現場に常駐していましたが、現在は本社にて各現場の持ち帰り対応図面の取りまとめを行っています。現場業務とは異なり、多種多様な現場の図面をさばいて納品しなくてはならず、人員の調整を行ったり、日々の進捗を常に把握したりするように心掛けています。新人教育にも携わり、建築未経験の方や外国籍の方もいる中で、できるだけ分かりやすく物事を説明するようにしています。CAD 操作の研修を中心に建築座学や施工管理、現場の見学会など幅広い視点で建築に興味を持ってもらえるよう取り組んでいます。



山森 翔太さん

主任
担当業務：生産設計（施工図）
社員歴：11年

スーパーゼネコンの案件も多く、さまざまな規模のプロジェクトに携われるのが当社で働く魅力の一つです。現場常駐となってからも社長が定期的に訪問してサポートしてくれ、経験豊富な先輩がいる現場への配属となるので安心して働けます。現場で働き始めて気付いたのは、施工図は思っていた以上に大切な存在だということです。多くの人が施工図を基に検討し、協力しながら建物をつくっていくからです。自分が作図した通りに建物ができ上がっていくことがこの仕事の面白さ、やりがいだと私は思います。先輩方の指導のおかげで今では現場から頼りにされることもでてきました。今後は自身のスキルアップに加え、後輩に施工図の面白さに気付いてもらえるような仕事をするのが目標です。



梶清 奈保子さん

担当業務：生産設計（BIM・ICT支援）
社員歴：7年

施工図の仕事は、単に図面を描くだけではなく、「どのように納めるか」「どのように施工するか」を考えながら建物づくりに携われることに大きな魅力があります。誰にとっても分かりやすい図面づくりを心掛けるとともに、現場の方々とコミュニケーションを取りながら、工事がスムーズに進められるよう図面を作ることに面白さを感じています。近年は BIM 活用にも関心を持っています。今後は施工図の知識と経験を深めていくとともに、BIM やデータ活用、業務自動化などの DX 施策を通じて、施工図と BIM の両面から建物づくりを支え、現場の負担軽減と生産性向上に貢献していきたいです。また、若手社員が活躍しやすい環境づくりにも積極的に取り組んでいきたいと思います。

建築学生のための
コンペ・イベント情報SNS

建築こんぺいと

@kenchiku.konpeito

「コンペ」×「エイト(無限大∞)」=「こんぺいと」

建築を学ぶ学生の＋αになる情報(設計展やイベント等)を発信中!
限られた学生生活、色んな事に挑戦しよう!

＼2026年10月～12月開催予定!／

「第3回 建築学生のためトートバッグデザインコンテスト」

募集テーマ:『夢の建築』

最優秀作品は実際に トートバッグ化!

受賞者には 豪華賞品 も! 詳細はインスタグラムを✓



建築学生のための総合情報サイト

総合資格navi

←ナイトはコチラ

Point 1
学生生活、も～っと充実させるなら!!

◎自身をレベルUPするためのヒントが満載！限りある学生生活、色々な事に挑戦しよう！

- 建築学生・土木学生が身に付けるべき知識＆スキル特集
- 全国の設計展イベント情報
- 各種キャンペーンやプレゼント企画も多数実施！





Point 2
建設業界で就活するなら!!

◎建設業界に特化した就活情報がまとまっているから、就活の効率UP！

- あなたを必要とする企業からスカウトが届く
- 興味のある企業にアプローチができる
- 実際に選考に通過したESや体験談が見られる

◎さらに！春期・秋期で合説も開催！運命の企業に出会おう！







にゃんぺい先生

定年間近の教授（就職担当）。面倒見が良く学生に人気で、放課後になると就活に悩む学生たちが研究室に訪れる。コーヒーが大好き。

総合資格学院の本

試験対策書



建築士 試験対策
建築関係法令集 法令編
定価:3,080円
判型:B5判



建築士 試験対策
建築関係法令集 法令編S
定価:3,080円
判型:A5判



建築士 試験対策
建築関係法令集 告示編
定価:2,750円
判型:B5判



1級建築士
学科試験対策
学科 ポイント整理と確認問題
定価:3,850円
判型:A5判



1級建築士
学科試験対策
学科 厳選問題集 500+125
定価:3,850円
判型:A5判



1級建築士
学科試験対策
学科 過去問スーパー7
定価:3,850円
判型:A5判



2級建築士
学科試験対策
学科 ポイント整理と確認問題
定価:3,630円
判型:A5判



2級建築士
学科試験対策
学科 厳選問題集 500+100
定価:3,630円
判型:A5判



2級建築士
学科試験対策
学科 過去問スーパー7
定価:3,630円
判型:A5判



2級建築士
設計製図試験対策
設計製図 テキスト
定価:4,180円
判型:A4判



宅建士 試験対策
必勝合格 宅建士 テキスト
定価:3,080円
判型:A5判



宅建士 試験対策
必勝合格 宅建士 過去問題集
定価:2,750円
判型:A5判



1級建築
施工管理技士
第一次検定 問題解説
定価:2,750円
判型:A5判



2級建築
施工管理技士
第一次検定・第二次検定 問題解説
定価:2,090円
判型:A5判



2級建築
施工管理技士
第一次検定 テキスト
定価:2,420円
判型:A5判

設計展作品集＆建築関係書籍



建築学縁祭 オフィシャルブック
定価:1,980円
判型:B5判



建築新人戦
定価:1,980円
判型:A4判



Diploma× KYOTO
定価:2,200円
判型:B5判



DESIGN REVIEW
定価:2,200円
判型:B5判



赤れんが 卒業設計展
定価:2,200円
判型:B5判



画文で巡る! 最強TOKYO 建築図鑑
定価:2,420円
判型:A5判



画文で巡る! 丹下健三・磯崎新 建築図鑑
定価:2,420円
判型:A5判



構造デザインマップ 東京
定価:2,090円
判型:B5判変形



構造デザインマップ 関西
定価:2,090円
判型:B5判変形



環境デザインマップ 日本
定価:2,090円
判型:B5判変形

お問い合わせ
総合資格学院 出版局
［URL］https://www.shikaku-books.jp/
［TEL］03-3340-6714

Architekton

【アルキテクトン】古代ギリシャ語で建築家の意。
「始原、原理、首位」を意味するarchéと、「職人、工匠」を意味するtektónの合成語。世界最古の建築書「ウィトルーウィウス建築書」の訳者である森田慶一は、ギリシャ時代の観念として、建築家とは「諸技術の原理的知識をもち、職人たちの頭に立って制作を指導しうる工匠の術」をもつ者だとしている。また、建築家に必要な知識は、「制作・実技」と「理論」とから生ずるとも述べている。



［表紙］
画像は約半世紀に渡る生産設計ツールの歴史をAIでイメージ化したもの。図面作成の歴史は手書きから始まり、2次元CADの登場でDrawingの効率化がなされたが、さらにBIMの誕生により2次元では見えづらかった建物の全容や不具合、問題点を可視化することが可能となり、発注者、設計者、施工者間の早期合意形成の効果がもたらされより良い建物づくりの一役を担うことになった。
生産設計者はこれら3種類のツールを使いこなす『Professional Engineer』である。
（作成者：アイテック株式会社　代表取締役　木村　雄一）

発行　Architekton 首都圏 43号

発行人　佐藤 拓也

発行元　株式会社総合資格
〒163-0557　東京都新宿区西新宿1-26-2　新宿野村ビル22F
TEL 03-3340-2803（学校法人推進室）
株式会社総合資格　https:///.www.sogoshikaku.co.jp/
総合資格学院　https:///.www.shikaku.co.jp/
総合資格学院 出版サイト　https:///.www.shikaku-books.jp/

編集　株式会社総合資格　学校法人推進室（田中雅弘、福岡千晶）

取材・文・構成　株式会社日刊建設工業新聞社

印刷　シナノ書籍印刷株式会社

発行日　2026年10月1日

※本書の一部または全部について無断で、複写、複製することは禁じられております。

アルキテクトンシリーズ バックナンバーのご紹介

バックナンバーをご希望の方は、下記までメールにてお申し込みください。
なお、お申し込みの際には下記の必要事項をご記入ください。
▶▶▶ お申込みアドレス：gakkou@shikaku.co.jp

■必要事項■
①メールタイトル：バックナンバー希望　②希望するナンバー　③住所／氏名／年齢／電話番号
④e-mailアドレス　⑤学校名（学部・学科・研究室・学年）　⑥希望進路［就職／進学］　⑦進路［内定先／進学先］
※⑥⑦は、該当する何れかをご記入ください。

Architekton 首都圏

39号

施工効率、品質の
更なる向上へ
生産設計特集

40号

よりよい建築のための、
建築家とエンジニアの
協働による設計教育ー1
千葉工業大学
建築学科・都市環境工学科

41号

システム工学を学び
地域社会・グローバル社会へ
芝浦工業大学
システム理工学部
環境システム学科

42号

よりよい建築のための、
建築家とエンジニアの
協働による設計教育ー2
千葉工業大学
建築学科・都市環境工学科

Architekton 首都圏∞

Vol.01

WA-K.project
空き家改修プロジェクト
建築計画研究部

Vol.02

WA-K.project
COLOR MY TOWN
利根運河シアターナイト
加子母木匠塾

Vol.03

WA-K.project
空き家改修プロジェクト
学生如学会
建築構造デザイン研究会
Perspective研究会
dipa

Architekton

首都圏

2026 October



総合資格学院



[アルキテクトン]
www.shikaku.co.jp

Architekton

万物に学び知識を深め、創造の世界を広げる

首都圏

2024 March

生産設計特集

施工効率、品質の更なる向上へ

39

座談会――――実務者と教育者が語る生産設計職の魅力

【出席者】

糸井　史恵さん	（株式会社スエヒロ設計事務所 副部長）
小林　勤氏	（株式会社佐沼建築システムデザイン 生産設計部課長）
佐藤　智甲矢氏	（アイテック株式会社 生産設計部）
花澤　瑞城氏	（株式会社 sai 総合企画 横浜支店 係長）
吉村　真裕氏	（株式会社池下設計 関東ブロック 営業課 チーフ）
瀧川　慧氏	（日本工学院専門学校テクノロジーカレッジ建築学科建築設計科専任教員・主任）
村田　佑希氏	（日本工学院八王子専門学校テクノロジーカレッジ建築学科建築設計科専任教員）





吉村（よしむら）　真裕（まさひろ）氏
国士舘大学工学部卒。経験年数 15 年。携わった主なプロジェクトに勝どき 5 丁目、武田薬品藤沢研究所など。一級建築士。



糸井（くめい）　史恵（ふみえ）さん
中央工学校女子建築設計科卒。経験年数 20 年。携わった主なプロジェクトに銀座 SONY CITY、新国立競技場など

■生産設計の役割や実務の現状は？

吉村　生産設計、いわゆる施工図は、一般的に言うと設計図を基に納まりや寸法などの建築情報を施工者の視点で落とし込んだ図面です。建築現場では、多種多様な職種の工事が行われており、部材の取り合いや納まりを成立させるためには、異なる工種の施工情報を統合し、ゼネコンが施工するための図面が必要になります。施工図作成にあたって、私たちは設計図の納まりに不具合があれば施工者と検討し、設計者・監理者と協議の上、施工可能で品質も確保された図面を作成する役割も担っています。

小林　生産設計という言葉が使われ始めた頃は、施工図を作成する担当者は、単純に図面を作成する人を指す図面工という立ち位置から始まったと思います。しかし、現場ではモノ決めされていない状態で工事が始まるため、近年は単に設計情報を施工図に落とし込むのではなく、施工者と一緒にモノ決めと並行して作図するようになり、仕事の範疇が広がってきていると感じます。その分、私たちは、建築に対する知識をより深めていかなければなりません。

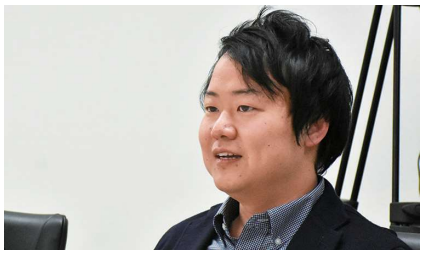
糸井　私の現場ではフロントローディングを導入しており、今は設計図をつくる設計協力が主となっています。設計者は申請図など行政調整に時間を取られているため、簡易な平面図くらいしかなく、設計図の中の詳細図などを私たちが作成し、図面提供するケースが増えています。これからは、このような設計協力も主要な役割になっていくと思います。

花澤　生産設計業界は、売り手市場で人手が足りない状態です。生産設計の業界に入ってくる人材が多いわけでもなく、育てるのに時間もかかり、皆さんそれぞれの現場で苦労されていると思います。現状では多くの残業を余儀なくされる忙しい現場もあるようですが、今年から働き方改革法に関連して残業規制が入るため、ゼネコンもいろいろと取り組みをされており、私たち生産設計業界としても、法律に沿った仕事の進め方を考える必要があります。

佐藤　教育が大変だとおっしゃるように、正直、学校で勉強したことと結構大きなギャップがあります。学校の授業で、納まりについて教えるのは大変でしょうし、それを課題で納まりを正確に図面化するのは、学生にとってはレベル的に高度過ぎると思います。入社して 3 年近くの間に、さまざまな物件に関わらせてもらいましたが、物件ごとに全部納まりが違います。ケース・バイ・ケースが本当に多いため、テンプレートのような教え方ができないところが施工図の難しさでもあり、やり甲斐でもあります。根気がいる職業ではありますが、施工図に関わっている人たちは丁寧に教えてくれる方が多く、経験を積ませていただいています。

■日本工学院での生産設計教育への取り組みは？

瀧川　生産設計教育といえるかどうかわかりませんが、日本工学院では従前からの CAD 教育とあわせ BIM 教育に力を入れてきました。また、昨年度から順次カリキュラムを改訂し、2 年生から本格的に BIM を学べる環境を整えているところです。本校では、1 年生の後期から CAD 教育を始めています。私が担当する建築学科は大学と同じ 4 年制で、現時点では 2 年生から CAD を本格的に始め、3、4 年生は BIM が必修です。BIM は、半年かければ誰でも使えるようになります



小林（こばやし）　勧（すすむ）氏
中央高等技術専門校卒。経験年数 17 年。携わった主なプロジェクトに東京ミッドタウン日比谷、麻布台ヒルズなど



花澤（はなざわ）　瑞城（みずき）氏
日本大学生産工学部建築工学科卒。経験年数 8 年。携わった主なプロジェクトに新日比谷 PJ 広場関連施設、熱海後楽園ホテルなど



佐藤（さとう）　智甲矢（ちはや）氏
日本工学院八王子専門学校卒。経験年数 3 年。携わった主なプロジェクトに新宿区早稲田鶴巻町、川口本町 4-9 再開発など

が、その先にどのような BIM 教育を行うかが課題です。今までの BIM を使った設計課題では、構造的合理性や細部を度外視して、奇抜な形状をつくって満足しがちですが、その建築にどのような価値があるのか考えるところまで踏み込まないと、本当の BIM 教育にならないと思います。

専門学校としても大学との差別化が不可欠で、建物の仕組みや施工方法に加え、端部やパラペット（外壁と屋根の境界にある立ち上がり部分）などディテールについても学べるような BIM 教育を行おうと、私の授業では、木造の軸組図を BIM で立ち上げさせています。それにより、建築の成り立ちや実際には隠れて見えない内部に対する知識を少しでも持って卒業できるはずです。先ほど生産設計の実務で、より多くの建築に対する知識が求められているという話があったように、クリエイティブな部分に縛られず、建築として成り立たせる力を身に付けさせるのが、専門学校の建築教育の姿だと考えます。

村田　最初の教え子の佐藤くんを送り出してから 3 年が経ち、その間、何人もの卒業生が学校を訪ねてきて、仕事ぶりについて報告してくれます。その中で生産設計業界に進んだ卒業生は、納まりなど細部に目を向けて作業するのが楽しいと話しています。今日お集まりの 5 社からも毎年、求人票をいただいておりますし、多くの卒業生もお世話になっております。佐藤くんから学校教育と実際の業務とのギャップを指摘されましたが、卒業生が生産設計の現場で一日でも早く活躍できるよう、納まりのさわりだけでも教えておきたいと感じています。

八王子校はキャンパスが広く、ものづくり工房という屋内施設もあり、実寸大の木造平屋建て住宅を建設する実習系の授業を用意しています。仮設図を読み込んだり、簡単にですけれども施工図を描いたりして現場監督役、職人役を決めて住宅建設の現場を再現しています。生産設計を知るきっかけになっていると思います。

瀧川　都心型キャンパスの蒲田校は八王子校のような大規模な施設を持っていないため、実際に住宅を建てる場所がありません。それならコンピューターの中で建築を建ててみようと、建設現場の動画を参考にしながら、バーチャル空間の中でリアルな建築を Revit で作成する授業を取り入れました。この方法なら、学生が BIM の高度な活用方法と設計、施工に関連する技術や知識を同時に習得できると考えています。

村田　八王子校では今年の 3 年生から、実験的に BIM を使って細かなディテールにも挑戦する授業も始めました。有名建築物の図面を学生全員に配り、BIM ソフトの Revit や ArchiCAD を使って、モデリングさせています。当初は、納まりなどを考えずに、とりあえず建具を付けておしまいなのかなと思っていましたが、意外と「ここの引き戸はどうなっているのですか」とか「上吊りなんですか」「戸車を使っているのですか」といった質問も出てくるので、ディテールに目を向ける学生が出てきたという面で成功だったと手応えを感じていますし、さらにこの教育を発展させていきたいと思います。

■生産設計を仕事に選んだきっかけは？

吉村　大学では意匠設計を中心に学びましたが、正直、こんな柱数やピッチ間隔で実際に建てられるのかなと疑問に思いつつ、図面や模型をつくっていました。大学 3 年次に、池下設計のインターンシップに 2 週間参加した時、0.1mm 単位で、施工に必要な情報を最大限に書き込む生産設計という仕事と出会い、その図面があって初めて建物が建つことを知りました。私はどちらかというと、意匠よりも生産設計の方が性格的に向いていると思い就職活動の選択肢の一つに入れ、最終的に池下設計に入社しました。インターンシップに参加することで、この会社の雰囲気や生産設計の仕事の一端を知ることができ、就職先を選ぶ判断材料になったので、参加して良かったと思います。

花澤　私もインターンシップがきっかけでした。建設現場に関わる仕事を探す中で、施工管理は 3K のイメージがありました。それに対し、建物を実現するために詳細な図面を描く仕事が魅力的に見え、sai 総合企画のインターンシップに参加し、そのまま面接を受けて、入社しました。

小林　当初は意匠設計を志望していましたが、社会人になって最初の現場が施工管理

で、２年目から生産設計を担当しました。施工管理者として、施工図がないと現場が成り立たないとすごく感じていて、改めて施工図に向かい合った時、生産設計の必要性や魅力を強く認識し、それからは生産設計の仕事で頑張っていこうという気持ちになりました。

桑井　学生時代に住宅や小規模のマンションの設計を手がけている意匠設計事務所でアルバイトをしていましたが、その事務所の図面が本当に大ざっぱで、設計者がボードの厚さもわからず現場の職人さんと話しているのを聞いてショックを受けました。しっかりと図面を描いている会社を探そうと、会社訪問する中で、スエヒロ設計に入社を決めました。

佐藤　入学時にキャリアサポートの方から「これからはBIMの時代」と言われ、専門学校の卒業となるので、大卒者と比べられたときに何か武器を持っていなければという考えもあり、BIMに興味を持っていました。BIMの授業では、多くの学生が創造力豊かな建築を提案しますが、実際に建てるのは無理ではないかと思っていて、もっと細かく現実的な建物の設計にかかわる仕事として生産設計に着目していました。しかし、就職活動のころはコロナ禍に見舞われ、インターンシップは受けられず、企業説明会も対面ではなくWebで行っている状況下で、アイテックに採用していただきました。

■卒業生の生産設計業界への就職状況は？

村田　八王子校では年によってばらつきがありますが、概ね卒業生の2、3割が生産設計の会社に就職しています。やはり決め手はインターンだと思います。今年もインターンのお知らせをいただいて、皆さまの会社にもお世話になっています。インターンでさまざまな種類のCADに触れてきた学生に感想を尋ねると、業務体験が楽しかったので生産設計の仕事に就くことを決めましたという声が多く聞かれます。進む道が決まるのは、インターンシップの影響が大きいですね。

瀧川　蒲田校も例年は八王子校と同じくらいの割合でしたが、今年は少し傾向が変わってきました。これまでの求人は大きく、設計部門か現場部門の２択だったのに対し、営業部門だったり設計部門でも設備設計の求人があったりするなど細分化されています。そのため、今年の生産設計会社への内定者は１割弱になっています。４年生の前期で生産設計会社の実務者を非常勤講師に招き、平面詳細図や躯体図を基にモデルをつくる授業を行っていて、その多くの情報が描き込まれた図面に興味を持った学生が、生産設計の道を選んでいるようです。



瀧川（たきがわ）　慧（けい）氏　一級建築士

■生産設計の魅力は

吉村　大変な仕事ですが、設計図が納まっていない箇所を納まるように自分で検討し、提案したものが採用されるとうれしいですね。でも一番の喜びは、皆さんも同じかもしれないですけれど、建物が竣工して一般公開される前に中を見させていただいたり、テレビで取り上げられたりした時で、大きな達成感や充実感を覚えます。若手にとっては仕事のモチベーションになり、その後の仕事への意気込みにもつながるでしょう。

桑井　吉村さんが言われたように、建物ができあがって多くの人が使っているのを見るとうれしいし、駅のようなインフラ施設の現場に関わることもあるので、私たちの仕事は社会の一端を支える大切な仕事だと思っています。実務面ではプロジェクトごとに現場が変わり、そうすると設計者も施工者など人も変わり、気持ちの切り替えができます。生産設計の業界は女性が多く、元気に活躍しています。



村田（むらた）　佑希（ゆうき）氏　一級建築士

小林　建築現場を見させていただいた際、不具合を見つけたら施工管理担当に連絡し、状況を説明することがあります。建物は工事が進んでいくにつれて、現場の歴史が積み重なっていきます。それの流れを全て知っているのが、おそらく施工図担当者だと思うのです。それで完成した時に、すごく思い出深い建物になりますし、設計者や施工管理者とは違う感覚でしょうが自分が手がけた建物だと大きな達成感が得られます。

花澤　施工図担当はニッチな立場で、私たちの会社が表に出ることはほとんどありません。しかし、躯体図や仕上げ図、製作図などの精度をチェックして、とりまとめ、工事を進めるうえで欠かすことができない図面を作成する重要な仕事です。施工図には建物をつくるためのあらゆる情報が凝縮されており、実際に形になったときには充実感に満たされます。

佐藤　自分が描いた図面をその通りにつくってくれる職人を見たとき、この人たちを動かしているのは自分なんだと、責任の重さに気付きました。職人が気持ちよく仕事ができる図面を描くことが、施工の品質にもつながると意識して仕事をしています。完成したときの達成感だけでなく、建物が仕上がっていく過程を内部からリアルタイムで見られることに魅力を感じています。

■建築を学ぶ学生へのメッセージを

小林　都心部ではさまざまな大規模再開発が計画されています。私たちは、いわば時代の景色をつくる建築プロジェクトに従事して



います。ぜひそのような仕事で力を発揮していただき、新しい時代の景色となる建物を一緒につくっていきたいと思います。

花澤　生産設計職にも、図面間の調整やチェックなどさまざまな担当領域があります。入社してからでも自身に合ったプロフェッショナルな方向を見つけることができますので、学生時代に施工図がどのようなものか知っていただき、ぜひ生産設計を仕事に選んで下さい。

吉村　学生の間に、インターンシップやアルバイトなどで、建築設計や施工管理、生産設計といった仕事を経験していただき、そこで、自身にふさわしい仕事として生産設計を選んでもらえたら、入社後のギャップが少なく、早くから能力を発揮できると思います。学生のうちに、いろいろ経験してみて下さい。

粂井　学生の頃、知人に「建築の道に進みたい」と言ったら「将来何がしたいか決まっていれば、それだけで人生が勝ったようなものだから、思いっきりやりなさい」と話してくれました。実際、この業界は、若くても年齢に関係なく思いっきり仕事ができるので、意欲のある方はぜひ来てください。

佐藤　意匠設計者が０を１にする設計者だとするなら、私たちは１を100にしてあげる設計者だと思います。100にするために専門工事業者やメーカーなど、それぞれの方々の知識の集大成としての施工図を作り上げるところに、魅力ややり甲斐があります。わからないことを恥ずかしがることなく、わからないから教えて下さいと言える素直さや、学ぼうとする意欲、真面目さがあれば、生涯を託せる仕事です。

村田　学生とは、入学して間もない頃に面談します。中には、自分の家を設計したいとか、現場監督になりたいとか、親が建築関係の仕事をしているので後を継ぎたいなど明確なビジョンを持っている学生もいますが、スポットライトが当たる意匠設計にあこがれ、なんとなく設計職に就きたいと話す学生が多いのが実情です。生産設計については、意匠設計でもなく、現場監督でもなく、と、消去法でたどり着いているのかもしれませんが、インターンや会社説明会に参加して、生産設計が自分に向いていると気付かされることが多いようです。私たち教員も指導する中で、建築に関わる多様な職種の一つとして、生産設計職の仕事内容を紹介し、授業でも生産設計専門の会社と協力をしながら、実務に近い教育を行えれば、学生の進路の選択肢が早い段階から広がっていくのではないかと、皆さまの話を聞いて感じました。ぜひ、このような授業を皆さまと一緒に行いたいと思います。

瀧川　学生は就職活動をし始めた時は、設計か現場かみたいな２択しかありませんが、就活する中で設計職にも意匠だけでなく設備や構造があり、設計事務所やゼネコンの協力会社として生産設計があると教えています。教員自身も、設計か現場という大きなくくりではなく、実際にはそれぞれの領域で細分化されている業種の魅力を伝えていかなければならないと考えさせられました。また、そのような職種の企業の方に実務的な授業を行ってもらい、学生時代から社会とつながっている教育環境をつくりだすのが、専門学校の理想で、私の夢でもあります。生産設計、施工図とは何かということを私たち教員が伝えるのではなく、最前線で生産設計に携わる皆さまが講師となって建築生産の要となっている仕事の重要性や面白さを学生に語っていただき、就活のアドバイスもしていただけるような教育プログラムを設けたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。



アイテック株式会社
社員みんなが幸せになれる会社へ



――会社の特色についてお伺いいたします。

川井　当社は「社員一人ひとりが技術者となり、プロ集団を目指す」「お客様に満足してもらう仕事をする」という経営目標を掲げ、また、「社員みんなが幸せになれるような会社を作りたい」という思いを社員全員で共有しながら業務に取り組んでおります。社長を含め上司とも風通しが良く、プライベートについても気軽に相談できるといった点から、いわば家族のような雰囲気を持つ会社となっております。

事業については、生産設計・施工図を含む幅広い図面作成業務を行っております。他にも実施設計図、仮設計画図、BIM、申請業務などもおこない、建築施工において欠かせない作図業務をおこなっています。特に、当社の実施設計図は生産設計の要素を取り入れ、そのまま施工図として使用できる高い精度を持ち、設計者や施工者のフロントローディングに活用していただいております。

――建設業界では、働き方改革の実現が大きな課題とされております。

川井　ご指摘のとおり、当社でも10年以上も前から働きやすい環境づくりを積極的に推進してまいりました。そして2011年4月には足立区からワーク・ライフ・バランス推進企業として認定をいただきました。当社では子育て世代の社員が多数活躍している状況の中で、時短勤務制度の導入など、育児と仕事が両立できるよう対応しております。また、2024年問題と称される残業時間の上限規制に関しても、現場スタッフが忙しい場合本社スタッフが適切なフォローを行うなど、働き方改革を確実に実施するためのサポート体制に努めております。

石沢　入社5年目で、2022年度に1年間の産休・育児休業を取得しました。2023年4月に復帰し、育休前と同じ生産設計・施工図作成の業務を担当しています。1年間ブランクがあったため、復帰直後は仕事の進め方などを再確認するなど業務感を取り戻す必要がありましたが、上司先輩方に図面の精度に問題ないかチェックしていただき、業務に取り組んでおります。また子供が急に体調を崩した時などは在宅勤務制度を利用するなどして、業務に支障なく取り組んでおります。

――今後の抱負は。

石沢　生産設計・施工図は奥が深くまだま



生産設計部係長 川井（かわい）　淳一（じゅんいち）氏
一級建築士、一級建築施工管理技士

日本工学院専門学校卒。入社21年目。携わった主な業務にしながわ水族館あざらし館、玉川高島屋S・C、関東マツダ碑文谷店など



生産設計部 石沢（いしざわ）　由貴（ゆき）さん

日本工業大学卒。入社5年目。携わった主な業務に小石川5丁目マンション計画、坂下総合病院なごみ、MURASAKI PENGUIN PROJECT TOTSUKAなど



足立区ワーク・ライフ・バランス推進企業の認定証

だ実力不足を感じております。これからもっと経験を積み知識を増やし、一人の技術者として会社に貢献できるよう成長し精進していきたいです。また、家庭を持ったことでなかなか時間的余裕は少なくなりましたが、知識を増やすという点で資格取得にも挑戦していきたいと考えています。

川井　図面と一言で言っても、使用する立場で図面の要求内容は異なります。設計者に対しては、原設計（デザイン・使い勝手等）を損なわないように配慮し、現場であればVE（バリューエンジニアリング）やCD（コストダウン）を意識した納まりを考えた図面を、また職人さんの方々には、部材間の距離・建材の無駄のない割付等、作業を考慮した図面を提供していきたいと思います。今後も長年の経験を生かし、お施主様・設計者・施工者、・職人さんの皆さまの要求にお応えできる作図を心掛け、さらなる生産設計・施工図の価値向上に取り組んでいきたいと考えております。



BIM建築モデル



BMI仮設計画モデル

BIM活用で新たな付加価値提供



代表取締役社長 木村（きむら）　雄一（ゆういち）氏
一級建築士、行政書士、宅地建物取引士



生産設計部 西島（にしじま）　忠利（ただとし）氏

日本工業大学卒。入社９年目。携わった主な業務に駒沢オリンピック公園総合運動場改築工事、日野病院、松山城病院など

――BIMの需要が高まっています。

木村　当社では、2010年からBIMに取り組んでまいりました。それまで当社の作図は全て2Dでしたが、日本のBIM元年と言われる2009年当時、生産設計・施工図、仮設計画図の担当を務めておりました私は、BIMが普及していくと考え、以来、BIM活用の技術を磨いてまいりました。現在では経営者としての役割と共に、日々、BIMマネージャーとして、BIM活用の提案、建築モデル、仮設計画モデル、各種詳細モデルなどを作成・指示しております。

西島　常駐予定の現場で、BIMの活用について話し合いがあり、木村社長に相談してBIMの操作方法を社内で学び、現在は生産設計・施工図の作成とBIM担当をしております。建物の形状や仕上がりなどのイメージに関して、BIMの方が2D図面と比べて、より具体的にお施主様との意思疎通が図れると感じています。また、鉄骨詳細や配筋モデル、施工ステップモデルは、施工時の配筋などの納まり検討や工事手順の確認に有効であり、打ち合わせの効率化や現場の生産性向上にも役立っております。今後は、現場所長との打ち合わせの上で竣工FMモデルの作成予定です。専門工事業者や建材の種類・メーカーの情報や、各種部材の交換時期など、維持管理や改修に必要な情報を盛り込んだBIMをお施主様にご提供することで、新たな価値などがご提供できるのではないかと考えています。

――これからの抱負は。

木村　経営目標にもあります「社員一人ひとりが技術者となり、プロ集団を目指す」「お客様に満足してもらう仕事をする」を理念とし、お客様と当社がwinwinになれるように、一層取り組んでまいりたいと考えております。また、建設業界としてBIM普及が定着しているとは言えない状況ではありますが、国土交通省が進める「建築BIMの将来像と工程表」などからも、今後さまざまな場面でBIMの普及が進むはずです。業界のニーズに合わせ、生産設計・施工図や、実施設計、仮設計画の部門でもBIM普及・定着を進めていきたいと考えております。私個人としては、BIM普及を目標に半生をかけるつもりです（笑）。

西島　自己成長はもちろんのこと、さまざまな業務を担当し、BIMの使い方や生産設計・施工図作成など、より高度な技術を身につけていきたいと思います。また年齢的にも若手育成が重要な役割であることを自覚し、技術の継承にも努めていきたいと思います。

アイテック株式会社
■所在地：東京都足立区南花畑2丁目6番8号
　　TKビル２階
■設立：1991年２月
■資本金：2000万円
■売上高：9億1000万円（2023年11月期）
■従業員数：91名（2023年11月現在）

株式会社 池下設計

生産設計をコアに全ての設計サービスを一気通貫で提供



関東ブロックブロック長 花尾（はなお） 唯良（ただよし）氏

生産設計業界の地位向上へ

池下設計は昨年に創業 50 年を迎え、全国に 15 の事業所を展開しています。建築生産設計を主な業務とし、元請設計業務、設備生産設計も行っています。当社の強みは業界随一の組織力で、約 750 人の従業員が在席し平均年齢は 33 歳と若い人材も活躍する会社です。研修制度や資格取得支援制度などを設け、社内全体の技術力向上を図っています。2021 年には杉並区から中野区に移転したのを機に、設備施工図部門を統合し、グループ企業として蒼設備設計が合流しました。2023 年には創建構造設計と池下 BIM 設備も合流し一つにまとまりました。設備部門や構造部門を擁する設計事務所は多く存在しますが、ここに建築・設備の生産設計を含めた事務所は数少ないのではないかと思います。生産設計業界のリーディングカンパニーとして業界のさらなる発展を目指すとともに、グループ全体としては設計から生産設計までを一気通貫で手がける「総合設計」を目指しています。

株式会社池下設計
■所在地：東京都中野区本町一丁目32番2号
ハーモニータワー 11階
■設立：1973年 10月
■資本金：5000万円
■売上高：56億 6000万円（2023年 3 月期）
■従業員数：748名（2023年 4月 1日現在）

東京本店スタッフが語る生産設計の醍醐味



東京本店長 崎山（さきやま） 純一郎（じゅんいちろう）氏

日本工業大学卒。入社 23 年目。携わった主な業務に Think Park Tower（大崎西口開発計画）、恵比寿ガーデンプレイス、丸の内トラストタワーN館など



東京本店グループ長 岡田（おかだ） 亮平（りょうへい）氏

福井工業大学卒。入社 18 年目。携わった主な業務に羽田エアーポートガーデン、埼友草加病院、東京大学伊藤国際学術研究センターなど

――入社の経緯は。

崎山　学生時代に当社の建築設計部でアルバイトをしており、指導いただいた社員の方々が優しかったので決めました。

岡田　意匠設計に携わることを目標に、ゼネコン設計部や住宅メーカーへの就職活動を展開する中で、大学教授や先輩たちから当社を勧められたのがきっかけとなりました。

岩本　大規模建築物の図面を書いてみたい。建物が完成する過程を理解したい。と思い就職活動をする中で施工図を知って、挑戦してみたいと感じました。

祁答院　意匠設計に携わりたくて就職活動をする中で、現場を知らないまま設計するのは嫌だと感じました。そんな時、池下設計の会社説明会に参加して、生産設計を知り、設計しつつ現場も知ることができるこの仕事を選びました。

――池下設計の魅力を教えて下さい。

岩本　多くの現場を経験してきた建築のスペシャリストが多い点、男女平等な点です。性別関係なく一人の技術者として認めてくれます。

祁答院　ゼネコンからの厚い信頼による、現場の豊富さです。シンボルとなるようなプロジェクトに関われるチャンスが多く、家族や友人に誇れるところです。

崎山　現場では先輩がフォローしてくれる環境を構築するよう心掛けています。キャリアに合わせた一つ上の業務にチャレンジ出来てスキルアップにもつながっています。

岡田　多くの現場で経験を積んだ社員が全国に多数在籍しているところです。私も先輩に教えてもらい今は後輩に伝えています。社内研修など教育制度は充実していると思います。

――生産設計のやりがいは。

祁答院　自分の提案が建物に反映される部分です。建物が完成して見にいったとき、自分の提案が無かったらこうならなかったのだと思うとうれしくなります。打ち合わせでの提案の仕方も、生産設計者の腕の見せ所の一つです。

岡田　施主や設計者、施工者の意見を取りまとめながら施工図を作成し、協議しながら進めるところにやりがいを感じます。限られた予算の中で施主、設計者の要望にできる限り応えつつ、施工者側の立場もくんで調整する部分が面白いと思います。

岩本　生産設計は、意匠、構造、設備、施



岩本（いわもと）　葉瑠香（はるか）さん

入社９年目。携わった主な業務にスターバックス リザーブ ロースタリー 東京、東京ドーム大規模リニューアルなど



祁答院（けどういん）　達也（たつや）氏

日本工学院専門学校卒。入社４年目。携わった主な業務にドコモ代々木第二ビル

工など建物に関するありとあらゆるものを図面としてまとめます。時間と労力がかかりますが、そこに必ず学びがあるのが楽しいです。

﨑山　施工図は、設計者、施工者、職人など多くの方たちが施工する際に必要な情報を盛り込んだ重要な図面です。関係各所で協議し情報やヒントを得ながら作成した図面を見て、現場が一体となり建築物を完成へ導けるところにやりがいを感じます。

――皆さんは麻布台ヒルズに携わったメンバーですね。

﨑山　私は営業として携わり、技術の会社として社員に高さ日本一の建物を経験してもらいたいと思い取り組みました。当社は最盛期 31 名の技術者が対応し、関東以外で中部・近畿の社員にも協力いただき取り組んだプロジェクトです。

岩本　私は着工初期から現場に入っていました。基礎、住宅、外構エリアなどの生産設計に関わりました。多忙でしたが、最後（竣工）までやろうと熱意をもって業務に取り組んでいました。



東京本店社内風景

祁答院　住宅エリアを担当しました。高品質を求められるので苦心しました。打ち合わせの場数を踏ませていただき、成長につながりました。

岡田　外装を担当していました。デザイナーがイメージする外装デザインと性能を確保することに対しての検討は難しかったです。この現場で初めて、気温での伸び縮みや風圧でのたわみや変形することを知り、建物は動くということを意識するようになりました。

﨑山　プロジェクト完了後の従業員アンケートで「携われて良かった」との声がとても大きかったです。そういう声が次のやりがいのあるプロジェクトを取ってくるモチベーションにつながります。

新入社員（2023 年 4 月入社）に聞きました



東京本店 Lee（イ）　Hongju（ホンジュ）さん

法政大学卒



東京設備支店 佐生（さしょう）　覇乃介（はるのすけ）氏

日本大学卒

■池下設計入社の経緯は。

Lee　デザインが苦手な一方で、作図には興味があり、中でも施工図に興味を持ちました。いろんな企業を調べる中で研修プログラムがしっかりできている当社を見つけました。

佐生　図面を書く仕事に就きたいと考えて就職活動をする中で、建築の心臓ともいえる立ち位置の設備設計に関わりたいと感じ、巡り合ったのが当社でした。

■入社前と入社後の印象は。

Lee　入社前に説明会で社内を見学して、雰囲気が素晴らしいと感じました。入社してみると、仕事中に先輩が気にかけてくれるなど、コミュニケーションが活発でより一層気に入りました。

佐生　建築、設備両方を気軽に質問できる環境なので仕事がしやすいと感じました。

■自身の今後の目標は。

Lee　仕事に関わる十分な知識を得た上で作業を進めていけるようになりたいと考えています。一人前になったら、後輩の質問にもしっかり答えられる人になりたいと思います。

佐生　一級建築士試験に合格して、設備と併せ建築も理解できる人材になりたいと思っています。

株式会社 sai 総合企画
生産設計部門、BIM 部門、建築設計部門で幅広いニーズに対応





事業本部本部長 秋山（あきやま） 宗知（むねちか）氏
建設実務専門学校卒。生産設計業務歴 33 年。携わった主な業務に栃木県議会議事堂、中外ライフサイエンスパーク横浜など

秋山　初めに、皆さんが sai 総合企画（以下 sai）に入社した理由を教えてください。

土岐　大学の就職活動課から勧められたのがきっかけです。ずっと建築に関わって技術を追求、研鑽したい、そんな夢をかなえられる会社だと感じました。

鶴岡　通っていた大学の講義を、当時の sai の顧問が担当しており、当社の存在を知りました。就職面談で社員の意気込みと、会社の安定性に惹かれ入社を決めました。

中島　大学では文系学科を専攻していました。金融関係の仕事を第一志望で就職活動を続ける中で本当にこの仕事が向いているのか不安になりました。学校から sai の経理の仕事を勧められ説明会に参加したところ、当時の社長直々に説明をしていて「すごい会社だ」と感銘を受け、入社を決意しました。

須田　インターンシップで当社に来て、初めて生産設計という職種を知りました。大きい現場に携われるうえ、女性にとっても活躍できそうな会社だと感じました。

狩野　就職活動中の説明会で当社を知りました。建築に対して、生産設計での関わり方もあると分かって選びました。

秋山　sai に入社してみていかがですか。

須田　建築現場に出て、学校では学べない、初めて分かることがたくさんありました。

鶴岡　知識は大切ですがコミュニケーション能力がより重要だと感じました。

中島　採用の業務を担当して、生産設計は建築に欠かせない存在だと実感しました。ただ、世間の認知度は低く、この魅力を学生さんに広めていきたい、知ってもらいたいと考えています。

土岐　大学で学んだことが通用せず驚きました。また、自分が携わった案件で、自分が描いた生産設計図が実物として建っているのを見て感動しました。

秋山　皆さんは生産設計をどう捉えていますか。

土岐　材料や納まり、取り合いの指示、機能の再検証と検討、建築の指針となる指示書だといえます。

須田　建築物は建築設計図書だけでは建てられません。どうすれば効率的でよい建物が建つのかを考えることが生産設計だと思います。

鶴岡　生産設計と建築設計両方の経験から踏まえると、設計という点では建築設計も生産設計も同じですが、建築設計は、マクロな視点で作られた図面であり、生産設計は 1 mm 単位で作られた、建物を作るための図面といえます。

秋山　鶴岡さんのように生産設計の経験を持つ建築設計者は貴重ですね。いかにして建築設計の形を変えずに、うまく取り付けたり納めたりするかを考えるのが生産設計の面白さです。今後は BIM も生産設計に活用していきますが、BIM 業務を担当する狩野さん



東京支店 次長 土岐（とき） 裕太郎（ゆうたろう）氏
芝浦工業大学卒。入社 17 年。携わった主な業務に六本木四丁目マンション、化粧品プラント工場など



設計部係長 鶴岡（つるおか） 桂輔（けいすけ）氏
千葉工業大学大学院卒。入社 11 年。携わった主な業務に PM 千鳥ヶ淵内装改修計画、Landport 新座など



管理本部 課長代理 中島（なかじま） 英人（ひでと）氏

拓殖大学卒。入社９年。主に採用関連業務を担当



関東支店主任 須田（すだ） 沙耶華（さやか）さん

日本大学卒。入社６年。携わった主な業務にカンセキスタジアムとちぎ、中外ライフサイエンスパーク横浜など



技術部 狩野（かの） 千夏（ちなつ）さん

宮城県立仙台高等技術専門校卒。入社１年。BIM 業務（モデリング、図面化、各図面修正作業等）を担当。

はどう考えていますか。

狩野　BIM は一目瞭然で納まりが分かるので、積極的に生産設計図作成に取り入れるべきかと思います。

秋山　生産設計業務について何を心がけていますか。

須田　誰が見てもわかりやすい生産設計図作成を心がけています。施工中に不備が見つからないよう、施工者側の目線や建物を使用するユーザー目線のことを考えながら作図しています。

土岐　設計者、施工者の意図を的確にくみ取って図面に落とし込むようにしています。

狩野　BIM モデルから二次元の図面に変換する時は、相手からの見やすさを意識しています。BIM は好きな位置の断面を見られるので、様々な立ち位置の方々の要望に応えられると思います。

鶴岡　私は、生産設計者が図面にしやすく、できるだけ早く施工に取りかかれるような設計図作成をモットーにしています。



新入社員研修の様子

土岐　設計者がそのような考え方だと、とても助かりますが、現実的には厳しい部分があるのではないでしょうか。

鶴岡　デベロッパー次第でもあるので、むずかしいところもありますが…。

須田　現場では設計者と意見がぶつかることもありますね。

秋山　そうですね。設計者や施工者、職人さんたちと意見が衝突することもありますが、その時にコミュニケーション能力は重要となりますね。生産設計業界が求める人材は、ほかにありますか。

土岐　物づくりが好きな人が向いていると思います。

鶴岡　向上心があり、分からないことは分からないと正直に言える人が続く仕事だと感じます。

中島　人に愛される方、人とうまくやっていける人は、物事を教えてもらう機会に恵まれやすい気がします。

須田　率先して人に話しかけられる人は、現場でも円滑な人間関係を築けると思います。現場は男性の割合が圧倒的に多く、女性がいると仕事がしにくいと感じる人もいるので、こちらから積極的に交流を図るようにしています。

秋山　会社の将来をどう見ますか。

土岐　生産設計管理部と BIM 推進部や建築設計部の連携をより一層強化して会社の技術力を高められる会社だと思います。

中島　働き方改革によって一人一人の労働時間が減るとともに、多分野に精通したゼネラリストが重宝される時代がやってくると思います。社内的にも、例えば生産設計と建築設計が両方できる人材を輩出する仕組みをつくっていけたら組織力が上がるのではないでしょうか。



代表取締役社長 坂本（さかもと） 博昭（ひろあき）氏

同業他社と協力しながら、生産設計の認知度と地位向上を目指していきたいと考えています。また、建築設計部を強化し、建築設計から生産設計まで一貫で対応できるオンリーワン設計事務所を目指し、元請け受注の増加、並びに会社発展を図っていきたいと思います。

株式会社 sai 総合企画
■所在地：東京都千代田区神田駿河台 1-7-7
　　白揚第二ビル３F
■設立：2003年７月
■資本金：1000万円
■売上高：18億 700万円（2023年６月期）
■従業員数：192名（2023年 4月 1日現在）

株式会社佐沼建築システムデザイン
充実した教育制度で新人をサポート・育成





代表取締役社長 中村（なかむら） 務（つとむ）氏　一級建築士

中村　最初に多数の生産設計会社がある中で、当社･佐沼建築システムデザイン（以下･佐沼）を選んだ理由を教えてください。

王　専門学生時代の会社説明会がきっかけです。卒業制作で BIM を使うくらい得意だったので、当時から BIM に注力していた佐沼を選びました。

田邉　専門学生時代、佐沼でアルバイトをしていました。その時、居心地の良さを感じて入社を決めました。

白岩　私は、職業訓練学校で求人を見つけて佐沼を知りました。建築の仕事に興味があり、訓練校で CAD を学んでいた際に、担当教員が勧めてくれたのが佐沼です。会社説明会に参加した際、とても友好的な雰囲気だったことや佐沼に学校の OB がいたこともあり入社を決めました。

村元　専門学校では意匠を学んでいたのですが、デザインのセンスがなく、卒業後しばらくフリーターをしていました。正社員になろうと思って見た求人サイトで佐沼を知り、生産設計に興味を持ちました。



建築設計部部長 秦（はた） 幸生（ゆきお）氏　一級建築士

工学院大学建築学科卒。入社 18 年。携わった主なプロジェクトに豊洲一丁目計画、JR 南新宿ビルなど。



生産設計部 田邉（たなべ） 萌（もえ）さん　二級建築士

中央工学校建築設計科卒。入社 6 年。携わった主なプロジェクトに OtemachiOne、ShibuyaSakura Stage など。

中村　みなさん、それぞれ色んな理由があって佐沼への入社を決めたのですね。実際に入社してみていかがでしたか。

白岩　自分のやりたいことを応援してくれる、意思を尊重してくれる会社だと感じました。

王　とても教育制度が充実していて、月に 1 度クラス分けされた勉強会に楽しく参加しています。

白岩　勉強会のおかげで、業務への理解度が深まるだけではなく、上司や先輩との心の距離が縮まるのも嬉しく思います。

中村　他にも会社の魅力などありますか。

秦　実施設計、生産設計、BIM のモデリングなどさまざまな業務内容があるので、それぞれを担当する人から幅広い建築知識やスキルを学べます。また設計事務所の協力会社として、大きなプロジェクトや様々な用途の建物に携われるのも大きな魅力の一つです。

中村　そこはまさに当社最大の魅力ですね。基本・実施設計から生産設計まで一貫して建築図面を作成できることで、より質の高い建物作りに貢献していると考えています。

秦　私は一級建築士資格を保有していますが、同時期に一緒に勉強していた中村社長とは、机を並べて勉強したこともあります（笑）。



生産設計部 王（ワン ウェイジエ） 韋傑氏

中央工学校建築設計科卒。入社５年。携わった主なプロジェクトに全薬工業南大沢新研究開発センター、品川駅北開発４街区など。



生産設計部 白岩（しらいわ） 茉菜実（まなみ）さん

フェリカ TA 卒。入社４年。携わった主なプロジェクトに麻布台ヒルズＣ街区、品川駅北開発４街区など。



生産設計部 村元（むらもと） 由佳（ゆか）さん

青山製図専門学校建築設計デザイン科卒。入社１年。携わった主なプロジェクトに赤坂二・六丁目地区開発計画（A 工区）など。

中村　とても懐かしいですね（笑）。白岩さんは今、二級建築士を目指していますね。

白岩　今現在、学科試験は合格しています。建築未経験からの挑戦はとても大変でした。働きながら、予備校に 11 カ月通いました。通える環境を整えてくれた会社に感謝しています。

中村　どんな部分が特に大変でしたか。

白岩　勉強する時間の作り方です。食べながら勉強したり睡眠時間を減らしたりしました。通勤時間も、スマートフォンのアプリなどを使ったり参考書を読んだりしました。平日でも１日最低６時間、土日は朝７時から夜中０時まで勉強しました。

中村　資格の勉強に打ち込める人は仕事においても人一倍努力ができ、より良い結果を残せる人だと思っています。生産設計に建築士の資格は求められませんが、目標に向かって取り組む姿勢は同じですし、知識も無駄にはなりません。これからも会社として、従業員の資格取得を応援していきます。



現場（生産設計室）での様子

中村　当社は新人教育に特に注力していますが、実際にはいかがでしたか。

村元　専門学校で建築を２年間学んできたので、ある程度自信を持って研修を受けましたが、思ったよりも分からないことや出来ないことが多くてびっくりしました。ですが、講師の方が一つ一つ丁寧に教えてくれたので、何とか付いていけました。少人数での研修なので、質問すればすぐ答えをもらえますし、復習もしやすい環境なので新人に寄り添ってくれる素晴らしい制度だと感じています。

中村　なるほど。無事研修を経て、今月現場に配属されましたが、実務ではいかがですか。

村元　「現場の職人さんはガテン系で怖い印象を持っていましたが、実際には朗らかでニコニコしています。初めての現場で緊張していましたが、皆さん優しく接してくれるので心が軽くなりました。

中村　現場に出てみないと分からないことだらけですし、現場で学べることは無限です。当社先輩の下で若い内から現場で学び、色んな方と会話し、やり取りすることで、将来の建設業界を支える優秀な生産設計者に成長していって欲しいと願っています。

中村　最後に今後の抱負など聞かせてください。

村元　生産設計はスピードと正確性が問われる仕事です。これからも失敗を恐れずどんどん新しいことに挑戦し、ミスの少ない図面を手掛けていきたいです。

王　自分の得意分野を見つけて、生産設計のスペシャリストになりたいと思っています。

白岩　現場に出られている方が少しでも「ラク」に「スムーズ」に施工して頂けるよう、今よりももっと知識を深めて、誰が見ても分かりやすい図面を作成して行きたいです。

秦　実務ではお客さまに喜んで頂ける実施設計図を一枚でも多く作成していきます。また一人でも多くの技術者を輩出できるよう、教育面でもさらに注力していきます。それによって、佐沼はより一層太く、持続可能な社会に貢献できる会社になると確信しています。



ボーリング大会後の食事会

株式会社佐沼建築システムデザイン
■所在地：東京都新宿区西新宿 7-22-37
　　ストーク西新宿ビル 307号
■設立：2004年 7月
■資本金：2000万円
■売上高：8億 900万円（2023年６月期）
■従業員数：92名（2024年１月現在）

株式会社スエヒロ設計事務所
活発なコミュニケーションで社内も現場も明るく





代表取締役 木村（きむら） 浩之（ひろゆき）氏

木村　施工図を仕事として選んだきっかけを聞かせてください。

李　韓国の高校で建築デザインを勉強した後、日本工学院専門学校に留学しました。デザインを勉強する中で、どこに柱や壁をどのように建てるのかなど施工側の知識がないと建築は実現できないと考えるようになり、就活をするにあたって施工図作成という職種があることを知って、当社に入社しました。

大平　世の中が不安定なので、手に職をつけたいというのが一番の理由です。父親が建築関係の仕事をしていたことも、建築業界を仕事に選んだきっかけとなりました。細かい作業が好きで、施工図を作成する仕事が自分に合っていると考えました。



課長 横川（よこかわ） 健太（けんた）氏

中央工学校卒。入社 13 年目。携わった主な業務に東京スクエアガーデン、東急プラザ銀座など

横川　建築の道に進んだのは、自分の家を自分で設計したかったというのが理由です。学校ではデザインを中心に学んだのですが、実際に建物がどのようにつくられているのか、そのような知識や技術がないままでは、自分の家を設計することはできないと思い、施工に密接に関わる施工図の仕事を選びました。結果的には、マンションを買ってしまいましたけど（笑）。

木村　施工図作成の会社がいくつかある中で、当社を就職先に選んだ理由は。

李　生産設計の会社に勤めている専門学校の先輩から建築現場での仕事ぶりの話を聞いて、自分も現場で施工図を描いてみたいと思うようになりました。会社訪問やホームページなどで、当社の研修制度が充実していることを知り、入社させてもらいました。

大平　学校に施工図関係の求人票がたくさん来ていて、正直、福利厚生と給料、勤務地を基準に当社を選びました。

横川　施工図の会社として３社目です。転職した時は、リーマンショックの影響で建設業界は仕事が減りつつある時期だったのですが、非常に明るい雰囲気の社風に惹かれ、楽しく働けそうと感じたのが当社を選んだ一番の理由です。

木村　実際入社してみて、どんな印象を受けましたか。

大平　上下関係が良い意味で希薄で、相談しやすい環境です。研修も充実していて、入社してしばらくは、先輩方が日々入れ替わりマンツーマンで施工図の描き方などを親身に指導してくれました。

横川　私が入社したときも、そう感じました。いまは部長、副部長になられている私より上の世代の人も、気軽に声を掛けてくれたりお酒に誘ってくれたりしてもらいました。

木村　優しいよね。優しすぎるのかな（笑）。大きな現場では他社の社員と一緒に仕事をしていますが、会社間の違いを感じることはありますか。

大平　他社の施工図員は黙々と仕事をしているので、当社と比べコミュニケーションが苦手な方が多いのかなと思うときがあります。

木村　施工図作成の仕事は、細かい図面を描くのが好きだということはもちろんだけど、当社はコミュニケーション力を重視して採用しているので、社内でも現場でも明るい雰囲気を醸成できるのだと自負しています。

李　現場に出てみて、実際に施工図を描いたら終わりではなく、図面を見た建設会社の現場担当者からの問いかけにしっかり答え、工事を効率的に施工するための工夫など



大平（おおひら）　悠（ゆう）さん

青山製図専門学校卒。入社９年目。携わった主な業務に青山学院大学中等部校舎、浜松町駅西口開発計画など



李 恵林（イ ヘリム）さん

日本工学院専門学校卒。入社３年目。携わった主な業務にキングレコード本社ビルなど

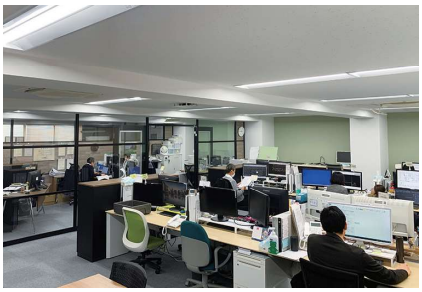
も提案するのが仕事だと実感しました。現場業務は１年になりますが、最初はとても苦労しました。

木村　現場では、図面１枚に対してさまざまな人が関わっていることを実感できます。学生では、建設現場ではどんな人が、どのように作業しているのかリアルなことはわからないでしょう。

横川　施工図員も建設会社の現場職員も同じですが、わからないことがあれば、情報を取りに聞き回れる人は楽しく仕事しているし、そういう人のところにみんなの声が集まります。いまリクルーターも任せられていますが、学生には図面の仕事だからといって内側にこもるのではなく、現場でいろいろな人と話せることが大事だと説明しています。

木村　これからの業務でどのような展望を持っていますか。

大平　中規模の物件を担当してみたいです。中規模だと建物全体を把握できるので、その経験を生かしチームのリーダーとして、いろいろな物件をまとめていきたいと思います。



社内風景

横川　私たちの仕事は、図面を描くだけでなく正確な図面をもとに現場をコントロールすることだと捉えています。図面には大勢の現場関係者がかかわっていて、施工上の調整や改善などをマネジメントするところに醍醐味があります。建設業界は、2024 年４月から働き方改革法に従い残業時間の上限規制が義務化されます。時短を実現するという観点からも、現場の回し方を勉強しなければならないと認識しています。

李　私はまだ先輩についている状況で、早く一人で打ち合わせや図面チェックなども任せられるようになりたい。最近は、先輩から、一人で打ち合わせに行ってきて、みたいに指導されることが増えてきました。

木村　近年、人手不足の解消や働き方改革の実現を可能とする生産手段として、建設会社が BIM 活用に本腰を入れ始めており、図面の業務でも今後 BIM が広がってくると予想されます。仕事に BIM をどう活用していくかイメージを持っていますか。

李　専門学校で BIM を学び、その有用性を実感しているので、BIM 業務に携わりたいと考えています。

大平　BIM の図面の方が、納まりや不具合の確認がしやすく、時短にもなるので率先して使っていきたいと思います。ただ、設計段階から BIM を導入しないと、単に 2D の施工図を 3D 化するだけでは、あまり意味がありません。

横川　計画・設計・施工から完成後のメンテナンスまで建物のライフサイクル全体にわたって使えれば、効果は高いはずです。そのためには設計者と私たちがより密になって早期の段階から図面作成業務に関われるような体制が必要です。

木村　ある物件では、着工８カ月ほど前から BIM を使って、鉄骨躯体や壁などを入れ込んだ 3D 図面を作成する仕事を行っている事例があります。設備は検討事項が多いので建築物との干渉を確認しながら配管ルートや機器の設置箇所を決めることができます。図面作成のスタートの仕方を変えていけば、実際、時短につながるでしょう。当社としても継続的に BIM を強化していく方針ですが、やはり、施工図に求められるのは正確に作図するオペレーターとしての能力に限らず、ゼネコンをはじめ工事関係者との図面のやりとりや課題の洗い出し、課題解決などについて、しっかり話し合い、現場をまとめあげるコミュニケーション力です。会社が持続的に成長していくため、BIM 活用に長けた人材に加え、コミュニケーション力の高い人材の確保に取り組んでいきます。



忘年会の様子

株式会社スエヒロ設計事務所
■所在地：東京都豊島区西池袋 3-30-4
　　K & H ビル 6F
■設立：1979年 1月
■資本金：1000万円
■売上高：4億 2000万円（2023年 9月期）
■従業員数：59名（2023年 9月現在）

『若きつくりびと』を育む日本工学院

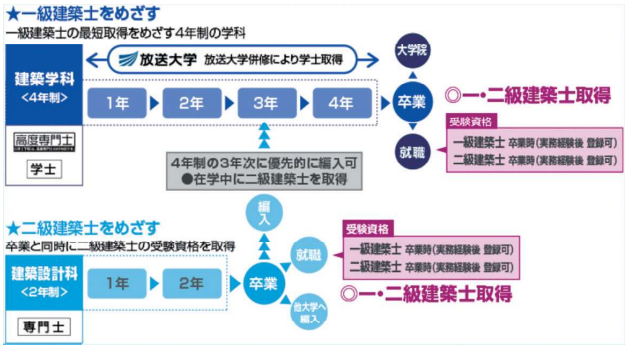
日本工学院は、東京芝浦電機（現東芝）の技術者だった片柳鴻（かたやなぎ・こう、1920-2019）により、終戦間もない1947（昭和22）年、絵画と洋裁の専門学校として東京都大田区女塚３丁目（現西蒲田５丁目）に創設された。同校は、NHKがテレビ放送を開始した1953年、当時のテレビ技術開発の最先端で活躍していた技術者を講師に招いて日本テレビ技術学校を設立し、工学分野に進出。カラーテレビ本放送に先駆け、優秀な映像技術者を輩出してきた。

その後、さまざまな分野での技術の進歩にあわせ、学科を拡大。1976年、新たに設けられた専修学校制度に基づく許可を受け、校名を「日本工学院専門学校」に改称した。日本工学院八王子専門学校（八王子校）を、蒲田校の姉妹校として1987年東京都八王子市に開校した。

現在、蒲田校と八王子校に６カレッジ34学科99専門コースを設置し、日本最大級の総合専門学校に発展。創立以来、「若きつくりびと」の育成を目標に掲げ、常に先端の技術・スキルを取り入れたカリキュラムにより、従来の専門学校という既成概念を超えたハイレベルな教育環境を実現している。

カレッジは、建築学科（４年制）と建築設計科（２年制）が属する「テクノロジーカレッジ」をはじめ「クリエイターズカレッジ」「デザインカレッジ」「ミュージックカレッジ」「ITカレッジ」「スポーツ・医療カレッジ」で構成。文部科学大臣認定の「職業実践専門課程」の建築学科と建築設計科には「建築・インテリア設計」「BIM」「建築構造・設備」「建築施工」の４コースを用意。１学年の定員は建築学科が蒲田校40人、八王子校80人、建築設計科は蒲田校80人、八王子校120人で、進路決定率は100％を誇る。建築設計科を卒業し、他大学に編入学する学生もいるという。建築学科のカリキュラムには放送大学科目が組み込まれており、必要単位を取得すると卒業と同時に教養学の学士の称号が授与される。本校の建築学科の卒業で高度専門士の称号が付与され、大学院に進学する学生もいる。

卒業時には一級建築士の受験資格を取得でき、特に建築学科（４年制）では、すぐ受験ができるように基礎的なところから試験対策までを授業で網羅。卒業後も気軽に相談できる体制が確立されている。



自分に最適な学びのスタイルで建築士が目指せる

Interview　学科間のコラボレーションによる教育を推進

日本工学院専門学校
日本工学院八王子専門学校
校長 山野（やまの） 大星（だいせい）氏



――日本工学院の教育方針を説明してください。

「専門学校というと、特定の分野に特化し、就職するための資格取得を目的としているようなイメージがありますが、総合専門学校の本校は、『若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する』をミッションに多様な領域の専門性を融合させた実践的教育を通して、新しいモノやコトなどをつくり出す〝若きつくりびと〟の育成を目指しています。「理想的な学びは理想的環境にあり」の理念のもと、社会の課題解決を担い、人々に感動を与えられる職業人として〝若きつくりびと〟を世の中に送り出すのが、本校の目標です」

――建築教育の特色は。

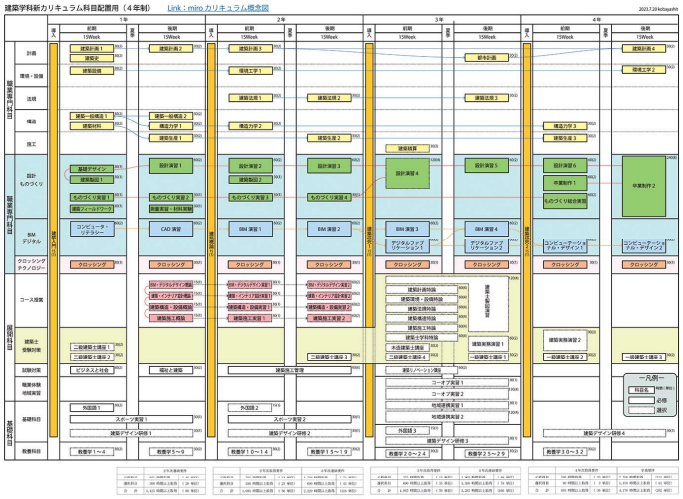
「本校は、既存の建築系専門学校がある中で建築学科・建築設計科を開設しました。他の専門学校や大学と同じ教育を行っていては、選ばれる学校になるのは難しいでしょうから、差別化が不可欠でした。やはり本校の武器はテクノロジーです。他校に先駆けて３次元CADを導入し、文部科学省の委託事業を受託しながら新しい技術を活用した建築教育プログラムの構築に取り組んできました。BIMや3Dプリンターについても出始めたころから着目し、他校に先駆けて時代時代の最先端のテクノロジーを使った教育に注力しています」

「最近、学生が八王子キャンパスをデジタル化したバーチャルキャンパスを制作し、本校のホームページにアップしました。バーチャル空間上にキャンパスをBIMソフトで作成し、どこからでも体験できるものを公開しています。また、道半ばですが、単科校の専門学校にはない総合専門学校としての強みを生かし、学科間のコラボレーションによる教育を進めていく方針です。建築とゲーム、映像、アニメ、コンサート、ITなど、他の

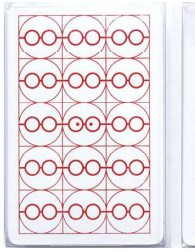
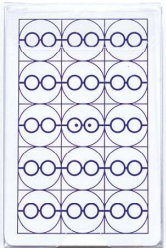
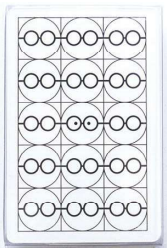
カレッジ・学科と融合した授業も充実させていく計画です。いまは、通常授業とは別にクロッシングテクノロジーという特別授業（通年で 60 時間）を取り入れ、一例として、ゲーム専門の教員がゲームソフトのプログラミングを教えるような内容もあります。従来の建築の領域に閉じているのではなく、建築を他分野とつなげていけるような人材育成に力を入れ、近いうちに、生成 AI を活用した建築の授業も始めたいと考えています。このような授業を行えるのは、幅広い分野の専門家を教員として擁している総合学園の強みです」

――実際に学習意欲を高めるための工夫は。

「海外旅行に例えると、大学教育は自分で行き先を決め、ホテルを予約するなど自由旅行型で、意欲のある学生は最高の旅を自由に楽しむことができます。一方、専門学校は、ホテルも食事も観光も付いたパッケージ型旅行です。全員が基本的な知識を習得したうえで、次から自分で企画し、独自の旅を楽しめられるような教育を行います。専門学校の学生の多くは、漠然と建築設計の道に進みたいという思いで入学し、当初は何をどのように勉強したら良いのか分からず、地図を持たずに見知らぬ街を探検するような不安を持っています。いわゆるＺ世代の学生は、私の学生時代と異なり最初から自ら学び自ら考え成果を出す、というような教育には慣れていません。そこで本校では、右も左も分からない新入生にとっての〝地図〟を示すことを目的に、オリジナルのトランプを使った『建築を学ぶためのパターン・ランゲージ』を考案しました。【建築とは何か】（カテゴリー 1）、【建築思考】（カテゴリー 2）など９カテゴリー、全 81 パターンで構成され、それぞれのパターンの概要を 54 枚のカードにまとめました。青のトランプには５カテゴリー 45 パターンと学生が不得意な建築設計課題の設計主旨を書くための９パターン、赤トランプには４カテゴリー 36 パターンと、建築を学ぶ学生に向けた 18 パターンを収録しています。例えば、青トランプ・ハート A〈交差点に立つ〉は、これから建築を学ぼうとする学生に対し、技術と芸術を両立させて勉強する心構えを示しています。さらに文科省からの受託事業として、『建築を学ぶためのパターン・ランゲージ』と『バイオクライマティックデザインによる住宅設計のパターン・ランゲージ』を組み合わせた 54 枚の黒のトランプも作成しました」



新カリキュラム科目配置２０２３年度版

「建築を学ぶためのパターン・ランゲージ*」トランプ（赤・青・黒）とカード例

＊パターン・ランゲージとは　1970年代、クリストファー・アレグザンダーによって提唱された設計の共通パターンを言語化する手法。

――学生の進路は。

「２年間あるいは４年間学ぶうちに、デザインが好きとか、コツコツ図面を描いている方が向いているとか、コンピューターを使った作業が得意など、個性が分かれてきます。卒業時には、設計事務所、ゼネコン、ハウスメーカー、公務員など建築に関わる多様な業種に就職しています。生産設計の会社に進路を決める学生も数割います。生産設計職は建築が高度化していく中でますます重要性が増しており、一生の仕事にしてほしいと思います」

――2027 年に創立 80 周年を迎えます。記念事業を計画されていますか。

「もちろん式典や記念シンポジウムの開催を計画しています。ハード面では、新校舎、ファブラボの建設を検討しています。ファブラボは、キャンパス内に分散している 3D プリンターや造作・製作機械を集約し、さまざまなものづくりに取り組める施設として整備します。縮小模型だけでなく実物大建築もつくれるような広さで、建築系の学生にとっては、建築のスケールや建設過程を身をもって体験できる空間になります。在学中に現場や新技術を体験し、ゲーム、アニメ、演劇などを取り入れたプラスαの建築を学べる専門学校を選んでもらえることを期待しています」。

日本工学院専門学校（蒲田校）

駅前好立地で快適な教育環境を実現する都心型キャンパス

ものづくりのまち・東京都大田区に立地する蒲田校は、JR 蒲田駅から徒歩２分と通学利便性に優れた都心型キャンパスに「テクノロジーカレッジ」「クリエイターズカレッジ」「デザインカレッジ」「ミュージックカレッジ」「IT カレッジ」の５カレッジ 22 学科を設置。オフィスや商業施設が集積する都内の一等地でありながら十分な敷地を確保し、広々としたセントラルプラザを囲んでシンボルタワーとなる 20 階建ての３号館をはじめ最先端機能を備えた６棟の校舎が配置されている。セントラルプラザの地下には、最新の音響・放送設備、電動収納観客席を完備した 4000 人収容可能なアリーナが設けられており、実習授業や卒業作品展のほかコンサート、公式バスケットの試合など学外のイベントにも活用されている。



蒲田キャンパス全景



建築学科／建築設計科 専任教員・主任 瀧川（たきがわ） 慧（けい）氏

技術を積み上げた先のクリエイティブを目指して

――建築学科の特色を説明して下さい。

「大学と違い専門学校ならではのカラーを打ち出す必要があり、実務的な BIM 教育や社会とつながる産学連携の授業に力を入れています。特に BIM 教育を強化したことで、従来は入れなかった大手住宅メーカーの設計部やゼネコンの BIM 関連部門などに就職する学生もいるなど、良い結果が出ています」

――BIM 教育はどのように行われていますか。

「蒲田校の建築学科は BIM は必修科目です。大学なら、おそらく BIM を使って、曲面を多用した奇抜なデザインなど従来の 2D では難しかった建物を設計しようという発想になるのでしょうが、専門学校の意義は、卒業後に即戦力となる人材を輩出することにあります。そこで、３年生の授業では BIM による木造の軸組や、RC 造の躯体モデルを作成する授業を行っています。単に 2D の図面を 3D 化するだけでなく、ディテールや材料についても覚えてほしいという狙いがあります。４年生の授業は、施工図を BIM 化するなど、より実務に近い内容です。生産設計部門に就職した際には、新人ながら業務が任せられるような技術を習得させることを目指しています。実際、卒業生からは他の同期社員より断然自分のレベルが高く、学校の授業をしっかり受けてよかった、とうれしい話を聞きます」

――BIM の授業で心がけていることは。

「専任教員は意匠系をはじめ全員が実務経験者であり、私自身もゼネコンの意匠設計の出身です。実務として木造建築を設計した経験がないので、仕組みや構法がわからない学生の気持ちも理解でき、教科書を見ながら学生と同じ目線で指導することを心がけています。建築学科では２年次に『建築・インテリア設計』『BIM』『建築構造・設備』『建築施工』のうち一つを専攻する期間があり、本年度の３年生には、２年次に BIM を専攻し、高い BIM 技術を持った学生が十数人います。彼らには、授業中に他の学生の BIM 技術の習得をサポートするような役割を与えています。１人の教員が授業の時間内に個別に指導できる人数は限られており、サポートしてくれる学生がいることはとても助かりますし、普段教わる側の学生が教える側にまわることで、より深い学びを得ることができると実感しています。大学のゼミの指導教員とちがって、担任制の専門学校だからこそ、このように学生と一緒になって授業を進められます。学生のほとんどは、設計者を目指して入学し

てきますが、結果的に設計者として就職するのは１割ぐらいで、多くが現場や営業関係の分野に就職します。3D で複雑なデザインの建築をつくろうという授業は、あくまでも意匠に進むことを目指している学生にしか響きません。これからの時代、現場や営業でも業務のデジタル化が加速していきます。業界が求める人材のニーズに応えるためにも、BIM を使って施工図や建物の仕組みを覚えることは必要でしょう。最近は、生産設計の会社から非常勤の講師を招聘し、より、実務に近い教育を実践しています」

――そのほか、日本工学院ならではの教育は。

「週に１度、ゲーム学科や演劇学科など他学科の講師を招いた授業を受ける時間を設けています。例えばゲームの技術を使って建築をつくったり、演劇用小道具のさび加工の技術を経験したりすることで、本校の特徴である総合学園のメリットを生かし、建築だけでなく幅広い知識や技術を身につけてもらうのが目的です。クリエイティブな教育も大事ですが、クリエイティブな発想が技術より先にあるのではなく、技術を積み上げた結果としてクリエイティブな思考や技術が身につくという教育方法が、専門学校のあるべき姿だと思います。本校は『若きつくりびと』の育成を教育目標に掲げており、総合専門学校のメリットを生かし、さまざまな分野と融合した本校“ならでは”の技術教育の充実に取り組んでいきます」。

生産設計の実務を講義



非常勤講師　岩本（いわもと）　歩（あゆむ）氏
ジェイ・エイ・ティー・シー設計株式会社
BIM 生産設計本部本部長

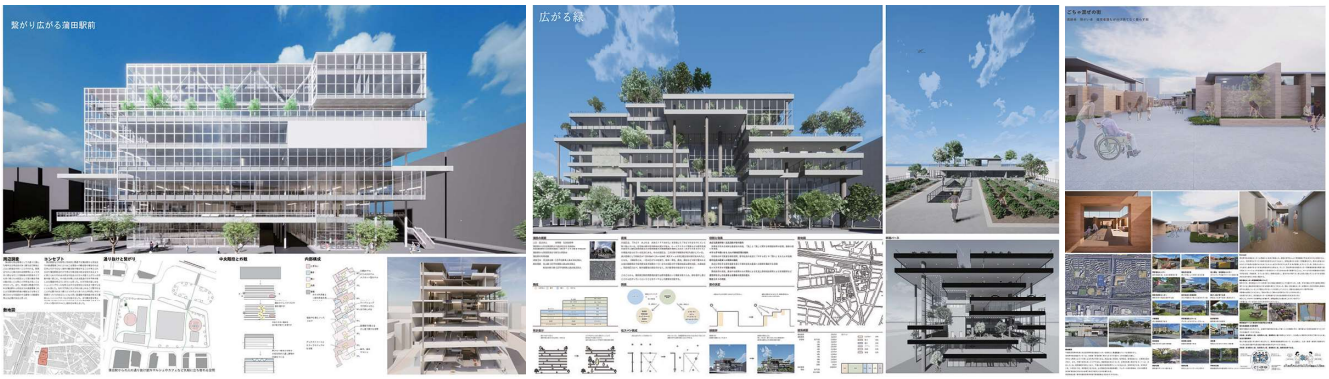




BIMの授業の様子

本校では 2023 年４月から、４年生の学生に週に３時間、生産設計にかかわる実務的な BIM の活用を教えています。生産設計の魅力はわかりにくいと思いますが、納まりなどを諸条件から考え出し現実の空間として形にするところにあります。

ジェイ・エイ・ティー・シー設計は、生産設計を主事業とする会社で、従来は 2D の施工図の作成が中心でしたが、10 年ほど前から BIM を使った 3D 化に舵を切りました。まだ 2D の施工図を使っている現場の方が多いものの、BIM モデルに対するニーズが高まっているのが事実です。特に大手ゼネコンでは、フロントローディングとして BIM モデルを使って構造躯体や設備配管との干渉の有無など、事前に施工段階の課題を洗い出し、生産性向上を図る取り組みに注力しています。おそらくそれほど遠くない未来に、BIM 活用が当たり前の時代になるでしょう。設計や施工管理、営業など建築業界に就職する学生は必ず BIM に触れる機会が増えてきます。授業で習得した BIM の知識や技術を仕事で生かしてくれることを期待しています。



４年生のBIM作品例

建築学科３・４年生に聞きました

【４年生】　質問項目　①就職内定先　②生産設計職を選んだ理由　③就職後に挑戦したいこと



安達（あだち）　郁也（ふみや）さん

①大林デザインパートナーズ
②３年生のときに初めてBIMに触れて、3Dで立ち上げることで自分が設計したものがより可視化して見られるところに魅力に感じ、BIMを使った仕事に就きたいと考えた。
③一般の方にもBIMで描いた3Dの図面を見てもらい、建てる前から現実的な建物を想像してもらうことでその建築の魅力を知ってもらえるよう、BIMの普及に取り組んでいきたい。



坂本（さかもと）　拓夢（ひろむ）さん

①池下設計
②施工図をBIMで図面化する授業で、これまで自分が設計してきた図面より素材や細かな寸法など情報の濃さに衝撃を受けた。施工者の立場で意匠設計者のイメージ通りに実現するのが生産設計者の役目で、設計と施工の両方の知識が必要となるため、自分の知識の幅が広がる。
③４、５歳の頃から高校生までサッカーをしていて、大きなスタジアムのような一大プロジェクトに携わりたい。



佐藤（さとう）　倭（やまと）さん

①TAKシステムズ
②就活に入って、設計とは単にデザインではなく、施工を考えた現実味を帯びた仕事であることを知り、生産設計に興味を持った。BIMで図面化すると、さまざまな情報とともに空間イメージが立体化されるところが魅力。
③街や市民に求められるランドマーク的な施設の仕事に、いずれはメンバーの中心として携わっていきたい。

【３年生】　質問項目　①生産設計の魅力　②生産設計のイメージ　③志望する就職先



木下（きのした）　洋海（ひろみ）さん

①高校生のとき、パソコンで３面図を作り上げているのを見て、CADやBIMに興味を持った。
②パソコンさえあればCADも自分でどんどん学んでいけると思うので、誰でも入りやすい世界だというイメージがある。
③サブコンで設備CADの体験をしてきた。建築CADとは別で、設備CADを使ったことがなく、どう機器や配管を配置していくかパズルみたいで面白さを感じ、その方面の仕事を選んでみようと考えている。



城﨑（しろさき）　万壽（ましゅう）さん

①授業でARなどを駆使してBIMモデルを作成することで、納まりを確認できるのは画期的。手書きの図面ではなく、データ上で管理していくのは、これから進んでいくと思われるので、生産設計をしっかり学びたい。
②まだ普及していないイメージですが、国の方針も少しずつデジタル化技術を取り入れていく方針のようで、BIM活用の道が広がっていくと思う。
③まだ、やりたい仕事が決まっておらず、いろいろな企業でのインターンを通して、ゆっくり見つけていきたい。



竹内（たけうち）　健翔（けんと）さん

①単純に手書きよりもCADやBIMで設計した方がやりやすさ、楽しさを感じられる。
②現場の人からデータが送られてきてなんか淡々とこなす機械のような硬いイメージ。
③業種はBIMオペレーターに絞っている。直近で同業種に入社している先輩も多く、先生からの薦めもあり、興味を持った。

日本工学院八王子専門学校（八王子校）

理想的な学習環境を追求する緑豊かな近未来型キャンパス

６カレッジ32学科で構成される日本工学院八王子専門学校は、東京ドーム８個分に相当する381,100㎡の雄大な敷地に最新のコンピュータ・実習機器を備えた実習施設、スポーツ施設、イケアとコラボレーションの学生ラウンジなど建物が有機的に美しく配置されている近未来型キャンパス。東京郊外の緑豊かな環境の中で、他校にはない独自性を打ち出した専門教育が行われている。大空間屋内施設のものづくり工房での実物大木造建築をつくる施工実習や最新のツールを使ったものづくりが、建築教育の特色の一つ。2021年には学生の創作意欲を高める二つの実習スタジオのほか、学生作品展示コーナーや建築関連の書籍を豊富にそろえた書棚も完備した「アーキテクトビルダー・スタジオ（ABStudio）」が完成。次世代の建築教育を見据えた、理想的な学習環境を追求している。



八王子キャンパス全景



建築学科／建築設計科　専任教員　村田（むらた）　佑希（ゆうき）氏

BIM科目を意匠から構造、設備、施工まで充実させたい

――担当している科目を教えて下さい。

「構造に関する座学やBIMの実習などを担当しています。前職は、建築設計事務所で主に住宅の設計を行っていましたが、当時は2D-CADが基本でBIMは使ったことがありませんでした。本校入職後、初めてBIMを学び始め、建物や空間を多角的に捉えることができるのは学生にとって良いツールだと思いました。設計のツールはどんどん進化をしていますが、一方で工法や文化など変わらないものも建築には多くあります。そこにも目を向けてもらえるような授業を心がけています」

――BIM授業の内容は。

「設計課題で学生自身が作成した建物の図面をBIMで3D化し、そのパースをプレゼンシートにまとめるなど意匠分野に限ったBIMの使い方でしたが、本年度から有名建築物の図面を学生に与え、細部までモデリングする授業も取り入れました。ミリ単位の設計に楽しさを見いだしている学生もいます」

――建築系学生の就職活動の状況は。

「求人数の方が学生数を上回っていて、本校限定の求人票もかなりあります。建築設計科、建築学科とも進路決定率は100％で、施工管理職が一番多く、次に生産設計職です。大学生のように何社も企業訪問して入社試験を受けるのではなく、求人票の中から1、2社に絞って受験し、内定をもらっているというような状況です」

「本校では年に複数回の合同企業説明会を行っています。多岐にわたる業種・業界から多摩地域を中心に活躍している企業まで、毎回多くの企業が参加しています。生産設計という授業自体はありませんが、企業説明会や就職指導を通し生産設計という職種があることを知るようです。中には、個別に説明会を開いてくれる生産設計の会社もあり、学生は生産設計職を優先的な仕事の一つとして捉えるようになっているのかもしれません」

――進学については。

「建築設計科であれば卒業後に本校の建築

学科や他大学に編入学したり、建築学科の卒業後に、大学院に進学したりする学生も年々増えています。建築設計科は、卒業と同時に二級建築士の受験資格が得られ、建築学科３年次へ編入学した学生は、３年次に二級建築士試験を受験し、在学中に資格取得が可能です。年々建築学科３年次へ進学する学生が増えています。二級建築士試験合格率はここ数年、70～80%が平均です。総合資格さんの試験対策講座のWeb授業を科目として取り入れたことが、その理由の一つと考えられます」

「本校は担任制で、学生各人の成績や進路について基本担任が面談します。加えて、キャリアコンサルタントを持った職員が常駐するキャリアサポートセンターが就職や進学に関するキャリアカウンセリング、企業からの就職情報の提供、求人企業の開拓などを行っており、学生一人の適性や将来への希望などを考慮して、適切なアドバイスを送っています」

――今後の授業で新たに挑戦したいことはありますか。

「本校は『若きつくりびと』という言葉を大切にしていて、学生の夢を技術育成という面から、私たちが後押しし、社会や産業の発展に貢献していくことを教育目標に掲げています。大学の座学系講義やゼミでの研究とは異なる教育カリキュラムが本校の最大の魅力です。実物大の建築や模型をつくり、トライ・アンド・エラーを繰り返す過程で新たな気付きや課題を見いだし、学んでいくプロセスを重視しています」

「新カリキュラムに段階的に移行しデジタル系の科目も増やす計画です。今後、建築生産現場でますます普及していくのは必然でしょうから、意匠だけでなく構造・設備・施工といったBIMの活用方法やデジタルツールを使ったものづくりの授業を実践していきたいと考えています。教員が一方的に教え、学生が受け身になるような授業ではなく、まずは学生が自ら考え、何かを発見し、学んでいくような機会の充実に取り組んでいきます」。



2023年11月29日に行われた設計職ガイダンスの様子。当日は「インテリア設計」「住宅設計」「生産設計」「構造・設備設計」「意匠設計」の各業界について、学生が正しいイメージを持てるよう実務経験のある教員が現実の業務内容や労働環境などを説明した

実物大建築物をつくる建築施工の実習は本校の強み



建築学科／建築設計科　専任教員　石井（いしい）　尚樹（なおき）氏

――担当している科目を教えて下さい。

「2年生の専攻科目の『専攻実習（施工）』をメインに、二級建築士の学科試験対策の施工分野、二級建築施工管理技士の学科試験対策など施工に関連する科目全般を担当しています」

――「専攻実習（施工）」はどのような内容ですか。

「実習を通し、現場監督としての管理技術や生産技術を体得します。広大な八王子キャンパスの一角に、実物大の住宅建設実習が可能な大空間屋内実習場の『ものづくり工房』が設置されていて、この中で実際に1分の1スケールの木造建物をつくる授業となります。図面（施工図）、材料は決まっているのですが、概ね4m×4m×5mの規模の木造平屋の建物をどういう順番で、どんな指示をすれば効率的なのか、工具や金物は何を使うのかといったことを学生自ら計画しながら組み立てます」

「私はほとんど口出しせず、授業のたびに現場監督、作業員を担当する学生を入れ替えます。作業開始前に全員で危険予知活動を行い、現場監督は安全管理、品質管理のポイントを確認したうえで図面、材料、道具を見て作業員に指示します。このようなサイクルを繰り返して最終的に建物が完成したら解体し、いわゆる更地の状態に戻します。全体で2カ月間ほどの授業です。専攻実習（施工）は、

花形授業の一つとして学生からも注目されていて、都心の大学や専門学校では難しい１分の１スケールの建物を組み立てるというかけがえのない経験を得られるのは、本校の強みの一つです」

――専攻実習（施工）での構造体の接合方法は。

「基本的にドリフトピン工法を採用しています。専用金具のドリフトピンを木材に嵌め込んで結合する仕組みで、仕口の加工も不要なため、ピンも木材も 10 年ほど流用が可能です」

――施工図は提供しているとのことですが、学生は施工図の描き方や読み取り方はどう習得しているのですか。

「座学で施工図を作成する授業を行っています。ただ施工図を自分で考えて描くというのではなく、元になる図面をトレースして手順にのっとって、施工図作成の基本を学びます。最初は全然描き方がわからない状態ですが、平面図や断面図の見方、材料の記載の仕方などを徐々に覚え施工実習では現場監督、作業員は施工図通り組み立てられているか、チェックできるまで図面を読み取れるようになっています」

――毎年、何人の学生が建築施工実習を専攻していますか。

「定員を 30 人前後に決めています。昨年度は建築設計科と建築学科に分けたチームにしていましたが、本年度は建築設計科、建築学科が混成した４チームを編成しました。チームごとに現場監督役を選び、現場監督同士でそれぞれのチームの役割分担、目標工程、手順などについて話し合い、監督は一切作業に携わらず、作業員が自分の監督の指示を受けて動くというルールのもとで、建物をつくりあげました」

――実習はいつごろ実施されますか。

「2 年次前期の４月から８月に、１回あたり３時間をかけて行います。ものづくり工房は屋内施設なので、梅雨時は雨を気にせず作業ができますが、冷房がないため夏場は室温が高くなります。現場監督役の学生にとっては熱中症対策をはじめ衛生管理も重要な役割で、実際の建設現場さながら、休憩や塩分・水分補給の時間を各班でコントロールするよう、指示しています」





ものづくり工房で実物大木造建築をつくる施工実習の様子

――今後の授業に取り入れたい内容は。

「リアルの建設現場の見学のほか、１分の１のスケールでなくてもいいので RC や S 造などの建築物についても実際に触って体を動かしてつくる機会を増やすのが、私の夢です。ものづくり工房の中に木造、RC 造、S 造の三つの建物が並んで、それぞれの違いを見ながら、建築士や建築施工管理技士の試験対策にも役立つような授業を展開したいと思っています」。

建築学科３年生に聞きました

質問項目　①生産設計への興味　②生産設計のイメージ　③今後の進路



上原（うえはら）　ゆりえ（ゆりえ）さん

①真っ白な図面から自分の描いた線や数値で少しずつ埋まっていくのが楽しい。PC 上で 3D 図面を作成する BIM の授業が好き。
②建物の仕様などを詳細に描き込むことで、図面１枚でどんな建物なのか想像させる仕事。
③生産設計会社のインターンに参加して興味がある。将来的に神奈川県で生活したいと考えているため、神奈川県の企業も探している。



大門（おおかど）　幹太（かんた）さん

①生産設計会社のインターンで施工図の修正作業をさせていただき、生産設計の実務や必要性を知った。初めて見る細かい図面は衝撃的。作業自体がとても楽しく、そこで興味を持った。
②施工するときに使う図面だというイメージを持っていた。
③生産設計をはじめ、CAD・BIM を使用する仕事に就きたい。



竹内（たけうち）　颯（はやて）さん

①デザインされた建物をさらに作り上げていくというイメージ。デザインされたものを完成に近づける最後の「仕上げ」という意味で興味がある。
②最初は単に施工図を描く仕事だと思っていた。
③生産設計業務での就職を希望している。インターンに参加した企業に魅力を感じている。



竹下（たけした）　美羽（みう）さん

①図面を描くのが好き。CAD・BIM の授業を通じてそれを追求している。
②細かい作業が得意なので、詳細な寸法などを書き込んで施工図を作成する仕事におもしろさを感じている。
③業界としては生産設計の道に進みたいと考えている。ゆくゆくは多くの人の目に触れる大規模建物の設計に携わりたい。

2級建築士の次は1級に挑戦!

2級建築士取得後すぐに1級にチャレンジできるメリットを活かそう!



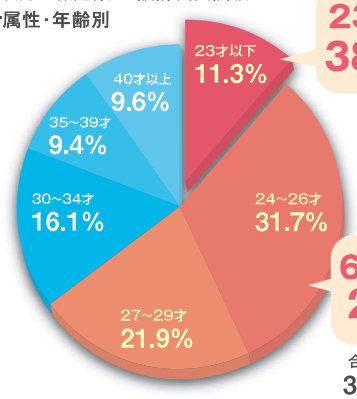
建設業界でも最難関資格である1級建築士だから様々な仕事をこなしながらの資格学習は大変…



時間に余裕のある在学中に資格学習をすすめるのがオススメ!令和5年度1級建築士設計製図試験では、20代の合格者が合格者全体のおよそ2/3を占めました。このことからも早くから試験に挑戦している若年層が多いことがうかがえます。

令和5年度試験では23才以下の方が380人以上も合格しています。

令和5年度 1級建築士 設計製図試験
合格者属性・年齢別



23才以下は380人以上

6割以上が20代!!

合格者合計
3,401人

企業側でも早くから「将来の建築士」になりうる人材を確保する動きが活発化しています!

採用担当者の声

某ハウスメーカー

当社において、入社初年度での2級建築士試験合格は必須条件と位置付けております。世の中で通用する国家資格を入社初年度に取得し、入社2年目から自信を持って業務に携われるようにと考えております。

某ゼネコン

1級建築士の取得は「自分のスキルアップのため」はもとより「会社が社会や地域から信頼されるため」にも非常に大切なことであるため、積極的に取り組んでほしいと考えています。また、資格に関しては、目で見てわかる個人の努力の成果として、昇進・昇格にも大きく影響します。

※建築士の受験資格や免許登録に必要な実務経験要件等については建築技術教育普及センターのホームページに掲載されています。 建築技術教育普及センターホームページ(https://www.jaeic.or.jp)

学院のすばらしさを身をもって知って
合格者数「日本一」という実績に納得です！



みなさん、こんにちは。
俳優の田中 道子です。

私は「総合資格学院」の1級建築士講座に通って、
2022年度1級建築士に無事合格しました。

長年の夢を叶えることができて、最高の気分です。

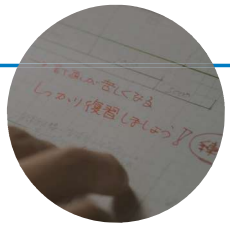
学院スタッフのサポート、充実したカリキュラム、
そしてオリジナル教材などそのすばらしさを身をもって知って、
あらためて合格者数「日本一」という実績に納得しています。



『その道のことは、その道のプロに聞く』

建設関連の資格取得はもちろん、
人材紹介や、法定講習まで、
「総合資格学院」におまかせください。

受験生のみなさん、がんばってください！







田中 道子さん　総合資格学院 イメージキャラクター

1989年8月24日生まれ、静岡県浜松市出身。オスカープロモーション所属。
ミス・ワールド2013日本代表、世界大会ベスト30に選出。ドラマ「大奥」（CX）、「霊媒探偵・城塚翡翠」「invert城塚翡翠 倒叙集」「Dr.チョコレート」（NTV/Hulu）、「六本木クラス」（EX）、映画「極主夫道」、「解体キングダム」（NHK総合）、「新・美の巨人たち」（テレビ東京）、「築き人」（BSテレ東）などに出演するほか、「プレバト!!」（MBS/TBS）では水彩画等で才能を発揮するなど多方面で活躍の場を増やしている。多忙を極める中、2022年に最難関国家資格である一級建築士に合格。

私の選択は 間違ってなかった

選んだのは、合格者の50%以上が
進んだ王道ルートでした。



総合資格学院イメージキャラクター
令和4年度 一級建築士試験合格
当学院受講生・俳優
田中 道子さん

1級建築士 合格実績 No.1

平成26～令和5年度
1級建築士 設計製図試験
全国 10年間 合格者占有率 **54.8%**
全国合格者合計 36,470名中 ／ 当学院受講生 19,984名

令和5年度
1級建築士 学科・設計製図試験
全国ストレート 合格者占有率 **51.8%**
全国ストレート合格者 1,075名中 ／ 当学院当年度受講生 557名

★学科・製図ストレート合格者とは、令和5年度1級建築士学科試験に合格し、令和5年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。（令和5年12月25日現在）

総合資格学院

学生 ＼建築学生に／ おススメのコンテンツ

スクールサイト▶www.shikaku.co.jp コーポレートサイト▶www.sogoshikaku.co.jp X⇒「@shikaku_sogo」LINE⇒「総合資格学院」Instagram⇒「sogoshikaku_official」で検索!

開講講座
1級・2級 建築士/建築・土木・管工事施工管理技士/設備・構造設計1級建築士/建築設備士/宅建士/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

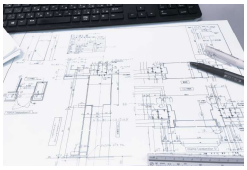
法定講習
監理技術者講習/一級・二級・木造建築士定期講習/管理建築士講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習/第一種電気工事士定期講習

お問合せ先
【東京本部】TEL:03-3340-5673
東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル3F

新宿校	TEL.03-3340-5671	〒163-0557 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル3F
池袋校	TEL.03-3982-8211	〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-9-1 セイコーサンシャインXIビル4F
上野校	TEL.03-3832-7201	〒110-0005 東京都台東区上野5-23-14 A-RISE御徒町2F
北千住校	TEL.03-5284-3911	〒120-0034 東京都足立区千住3-98 千住ミルディスII番館4F
五反田校	TEL.03-6408-9711	〒141-0022 東京都品川区東五反田1-11-15 電波ビル7F
吉祥寺校	TEL.0422-23-6011	〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-31-11 KSビル2F
立川校	TEL.042-524-7841	〒190-0012 東京都立川市曙町2-10-1 ふどうやビル3F
町田校	TEL.042-724-3061	〒194-0013 東京都町田市原町田6-28-19 フジビル98 3F
横浜校	TEL.045-316-6811	〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-17-1 相鉄岩崎学園ビル3F
川崎校	TEL.044-850-3411	〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-2-3 ヴェルビュ溝の口 2F
藤沢校	TEL.0466-55-2611	〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢484-1 藤沢アンバービル2F
厚木校	TEL.046-297-0511	〒243-0018 神奈川県厚木市中町2-7-11 オーイズミダイニングビル2F
さいたま校	TEL.048-642-9811	〒330-0844 埼玉県さいたま市大宮区下町2-16-1 ACROSSビル5F
越谷校	TEL.048-990-6971	〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷1-16-13 日本生命越谷ビル4F
川越校	TEL.049-291-5211	〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町10-16 BOビル1F
船橋校	TEL.047-425-8941	〒273-0005 千葉県船橋市本町5-4-2 森ビル6F
千葉校	TEL.043-302-1711	〒260-0028 千葉県千葉市中央区新町18番地10号 千葉第一生命ビルディング6F
柏 校	TEL.04-7168-9111	〒277-0021 千葉県柏市中央町1-1 柏セントラルプラザ業務棟5F

Architekton

【アルキテクトン】古代ギリシャ語で建築家の意。
「始原、原理、首位」を意味するarchéと、「職人、工匠」を意味するtektónの合成語。世界最古の建築書『ウィトルーウィウス建築書』の訳者である森田慶一は、ギリシャ時代の観念として、建築家とは「諸技術の原理的知識をもち、職人たちの頭に立って制作を指導しうる工匠の術」をもつ者だとしている。また、建築家に必要な知識は、「制作・実技」と「理論」とから生ずるとも述べている。



［表紙］

写真は、スエヒロ設計事務所で社員のデスクを撮影した1枚。生産設計行為の一部である製作図チェックの様子が写っている。生産設計は設計図を基に、関係業者が作成した製作図などの情報を整理し、建物を実際の形にするための施工図としてまとめる作業で、生産設計技術者には建築施工の効率化、品質確保の役割も求められる。近年、BIMを活用した施工図のニーズが高まるなど、生産設計各社の業容が広がっている。

アルキテクトンシリーズ バックナンバーのご紹介

バックナンバーをご希望の方は、下記までメールにてお申し込みください。なお、お申し込みの際には下記の必要事項をご記入ください。

■必要事項
①メールタイトル：バックナンバー希望　②希望するナンバー　③住所／氏名／年齢／電話番号　④e-mailアドレス　⑤学校名（学部・学科・研究室・学年）　⑥希望進路（就職／進学）　⑦進路（内定先／進学先）
※⑥⑦は、該当する何れかをご記入ください。

●お申し込みアドレス：koho@shikaku.co.jp

Architekton


21号　これからの建築設備


22号　女流建築家が見つめる先


23号　建築の新たな地平を開く


24号　実務と研究の両面から建築の可能性を探る

Architekton Plus（+）


14号　普通の日々を支える技術ー九州ー


15号　紐解くことから次代を描くー東京ー


16号　ものづくりと感性を磨くー工業高校ー


17号　人と暮らしを守る、繋ぐ建築ー信越ー

Architekton 首都圏


35号-1　東海大学 建築都市学部開設特集
「未来」をデザインする


35号-2　東海大学 建築都市学部開設特集
技術で「社会」をつくる


36号　多彩な学びで未来を創る
東京工芸大学


37号　受け継がれるアーキテクトマインド
法政大学

発　行
Architekton　首都圏　39号

株式会社 総合資格
〒163-0557
東京都新宿区西新宿1-26-2　新宿野村ビル22階
tel. 03-3340-3082
www.shikaku.co.jp

発行人
岸　和子
株式会社総合資格　代表取締役

文・構成
株式会社日刊建設工業新聞社

編集
株式会社日刊建設工業新聞社
株式会社総合資格　東京本部
福岡千晶・田中雅弘・小川一也

印刷
シナノ書籍印刷株式会社

発行日
2024年3月12日

※特記無き写真、図版は設計者および研究室提供

※本書の一部または全部について無断で、複写、複製することは禁じられております。

Architekton

首都圏

2024 March

総合資格学院

